



三徳開教110年

法音

今月のご法話

法華經の教えを
愚直に実行しましょう

平成29年
1月号 No.567



日蓮宗
法音寺



一人が一人を

是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。
法華経には、一人を導く功德は広大である
とあります。

その一人が、他の人を導く功德が又大きい
のです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

月刊・法音

平成二十九年一月号「567」

■目次■

【信仰の指針】愚直ぐちく

一途に三徳を実行しましょう

3

新年のご挨拶 鈴木正修

4

【朝のこない夜はない】

法華経の教えを愚直に実行しましょう

山首 鈴木正修

8

〔年賀〕

【新春特集】講演抄(4)

27

■特別企画・聖の教え(十三)

46

■とこのはの記 お正月は妙法蓮華経の妙

56

■読者の声 新庄達吉(高槻支院)

60

■のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

62

■福祉のひろば 少子・高齢社会の中の日本の福祉

92

■福祉に生きる 昭徳会 小原学園・小原寮の実践

94

■日本福祉大学経済学部開設40周年を迎えて

106

■幸せの種まき／編集後記

108

■連載まんが・ひまわり・49 じいちゃんの柱時計

109

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・カトレア

掲載写真

表紙・扉・8、23頁・裏表紙…梅田雅臣氏撮影

信仰の指針・27頁・45頁…加納将人氏撮影

法華經を信ずる人は

梅檀にこうばしさの

備えたるが如し

『十字御書』



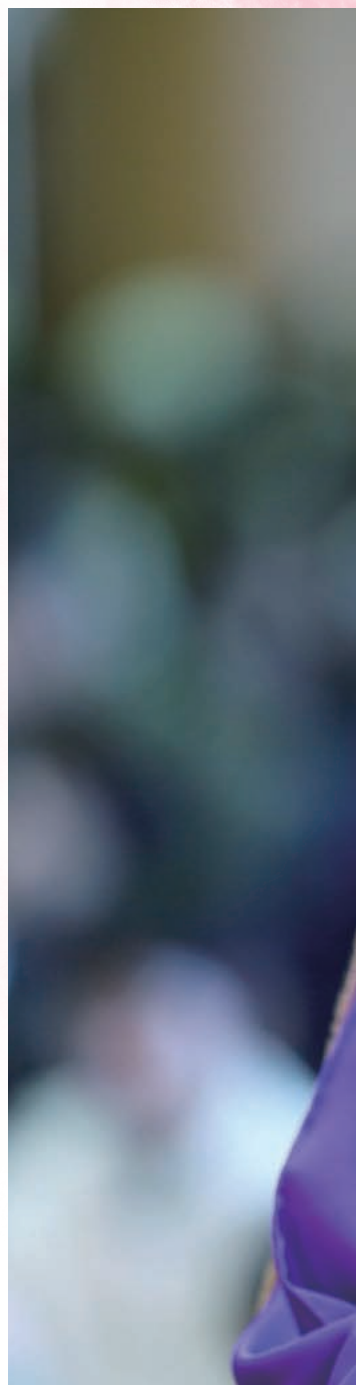
福寿草



愚直ぐちよく

一途に三徳を実行しましょう

日教五



❖ 新年のご挨拶 ❖

鈴木正修 五

平成二十九年丁酉正月を迎え、皆さま方に心より新春のお慶びを申し上げます。

皆さま御家族でお正月を過ごされ、今年がより良き年であるように願われたことと思えます。心の持ちようと三徳の実行次第で、もちろん良

い年にも悪い年にもなりません。

京都の名所司代として有名な板倉重矩の逸話です。

ある年の正月元旦のこと、板倉家の屋敷では恒例の新年の祝いが行われました。重矩を中心に家族と家臣たちが一堂に集まり、お酒を飲み、料理を食べて、今年一年の武運長久と一家の繁栄、安泰を願うのです。ひとりひとりの料理が、脚のついたお膳にのせられて運ばれてきます。板倉家の当主である重矩の前には、当然一番先にお膳が運ばれたのですが、緊張した家臣が重矩の前にお膳を置こうとした時、どうしたはずみか、お膳の縁がポロリと欠けてしまったのです。

「とんだ失礼を、すぐにお取り替えいたします」と言って家臣は戻りました。その顔は青ざめていました。

当時の人はよく「験」を担ぎました。殊に正月は一年の初めということでこの傾向が強かったようで、言葉にも注意し、「四」は死につながるので「ヨン」と読んだりしたそうです。膳の縁が欠けるのは「扶持

(給与)が欠ける」に通じるといふことで、皆、凶兆と見たことでしよう。

宴席には、藩の重役たちも並んでいました。家臣は重役たちからどんなお叱りを受けるのかと恐る恐る新しいお膳を重矩の前に差し出すと、当主の重矩は笑って、「でかしたぞ。膳の縁が取れたのは、扶持がさらに取れるというめでたい前兆じゃ。さあ飲め飲め、皆で祝おうではないか」と声を掛け、一座の空気が一気に明るくなったといひます。心は持ちよう、ものは考えようです。そして見習うべきは、重矩の機嫌の良さです。この人はいつもこうだったようです。

若い頃に読んだ『幸福論』の中でアランが「上機嫌療法」として「あらゆる不運や嫌な人、嫌な出来事に対して上機嫌にふるまうことが幸福への近道である」と言っています。また上機嫌こそが他人への最大の贈

り物だとも言うっています。

「これこそ、贈ったり、もらったりするべきものだろう。これこそ、世の人すべてを、そして何よりもまず贈り主を豊かにする真の礼儀である。これこそ、交換によって増大する宝物である。路上でも、電車の中でも、新聞を売っているスタンドでも、まき散らすことができる。そうしたからといって、何も失うことはあるまい。あなたがどこへ投げ捨てても、それは芽を出し、花を開くだろう」

たしかに、アランの言うように上機嫌でいることは、自分と他人への最高の贈り物だと思えます。また、ゲートルがかつて言ったように「人間の最大の罪は不機嫌である」というのも真実だと思えます。

今年はいつもお互いに上機嫌で三徳の実行に励もうではありませんか。皆さまの本年のご多幸を心よりお祈りしております。

朝のこない夜はない

山首 鈴木正修



法華經の教えを

愚直に実行しましょう

無知の知

「私はろくに学校も出ていないし、学が無く物を知らない」と自分を卑下する方がありました。その方に対して私は「人間一人が知っていることは、どんなに物知りの人でもたかが知れているものですよ」とお話しさせていただきました。実際、博覧強記と言われるような人でも知っていることには限りがあります。ノーベル賞を受賞するような人が何でも知っているかというところではありません。逆に人間は、本当に偉くなればなるほど、悟りに近づけ



ば近づくほど、自分は本当は何も知らない、ということに
気づきます。悟りから遠い人ほど、自分は何でも知っています。
自分は偉い、と思ってしまうものです。

「人間は考える葦である」と言ったフランスの天才ブレ
ズ・パスカルは『パンセ』の中で次のように述べています。
「私は自分を取り巻いている宇宙の恐ろしい空間を見る。
そして自分がこの渺茫たる広がりの一隅につながれている
のを認めるが、なぜ他の所よりもこの所に置かれているの
か、なぜ私が生きるために与えられたこのわずかな時間が、
私の先にあつた全永遠と私の後に続く全永遠とのどこかに
定められないで、ここに定められたかを知らない。私がい
たる所に見るのは無限のみであり、それは私を一箇の微分
子のように、また一瞬の間続いて再び帰らない影のように
取り巻いている」



人間が生きている時間はせいぜい長くても100年ぐら
いでしよう。それは宇宙の永遠の時間からすればほんの一
瞬です。その永遠の時間の中の一瞬に、なぜ自分がここに
いるのか誰にもわかりません。パスカルは言います。

「私が知っているすべては『自分がやがて死ぬべきもので
ある』ということ。にもかかわらず、避けられない『死』
というものこそ私が最も知らないものである」

要するに「私は自分がどこから来たのかも知らず、どこ
に行くのかも知らない。結局何も知らない」とパスカルは
言っているのです。

古代ギリシアの大哲学者ソクラテスは「自分より智慧の
ある者がいるかどうか」について神託を受けたことがあり
ます。神託とは、巫女さんを介して神さまに伺うことです。
その時の神さまの言葉が「汝より智慧のある者はいない」



というものでした。ソクラテスは「自分より智慧のありそうな人はたくさんいるのに……」^{おも}と^{つぎ}思い、^{つぎ}次から次へ人を訪ね、政治家、詩人、さらに大工など市井の人にも声をかけました^なが、皆、何か知^しっているよう^なでいて肝心な^なことになると何も知^しりませんでした。そのうちにソクラテスは「みんなは知^しったようなことを言^いう。また知^しったようなふりをするが、本当のことは何も知^しらない。みんな自分の無知を知ら^しない。しかし私は自分の無知を知^しっている。だから神さまは、私より智慧のある者はいないと言^いわれたのか」と思^{おも}った^{おも}そうです。これを『無知の知』^ちと言^いいます。

では、本当に無知な私たちはどうすればよいか。道元禪師^じが言^いっておられます。

「仏道^{ぶつどう}に入るには、我がこころに善悪^{ぜんあく}を分^わけて、よしと思^{おも}いあししと思^{おも}うことを捨^すてて、わが身^みよからん、わが意^いな



にとあらんと思おもうところを忘わすれて、善よくもあれ、悪あしくもあれ、仏祖ぶつその言語行履げんごあんりに随したがいゆくなり」

「仏祖ぶつその言語行履げんごあんり」とは、これまでのもろもろの仏ほとけさまや菩薩ぼさつさまが言いいのこされた言葉ことばであり、また歩あるかれた跡あとと
いうことです。それを凡夫ほんぶのはからいで思おもい計はからうことを
やめて、ただそのままに頂戴ちやうだいし、そのままその跡あとをふむと
いうことです。

これを実践じっせんした一番良ばんよい例れいが周利槃特しゅりはんとくだと思おもいます。

愚直ぐちやくな実行じっこう

周利槃特しゅりはんとくは「愚おろか者もの」の象徴しょうていです。自分じぶんの名前なまえを覚おぼえる
ことさえできませんでした。しかし周利槃特しゅりはんとくはひたすらお
釈迦しゃかさまの言いわれた通り掃除そうじをすることによって、法華経ほけきやう
五百弟子受記品でしじゆきほんにおいてお釈迦しゃかさまから「将来しょうらい仏ほとけに成なる」



という記別きべつを与あたえられたのです。説法せっぽうの座ざに連つらなつた弟子でしの一人ひとり「周陀しゆだ」とあるのが周利槃特しゆりはんとくのことです。このことは私わたくしたちに「知識ちしきではない。生半可なまはんかな智慧ちえでもない。愚直ぐちよくなまでにお釈迦しゃかさまの言いわれたことを信しんじて実行じっこうする人が仏ぼんに成なれる」と教おしえているのです。

日蓮聖人にちれんしょうにんの御遺文ごいぶん・法華題目鈔ほつけだいもくしやうに次のように書かかれてい
ます。

「夫それ仏道ぶつどうに入る根本こんぽんは信しんを以もつて本もととす。五十二位いの中うちには十信しんを本もととす、十信しんの位くらゐには信心しんじん初はじめなり。たとい悟りさとなければども、信心しんじんあらん者は、鈍根どんこんも正見しやうけんの者ものなり。たとい悟りさとあれども、信心しんじんなき者は、誹謗ひぼう闡提せんたいの者ものなり。善星ぜんしやう比丘びくは二百五十戒かいを持たもちて四禪定ぜんじやうを得え、十二部經ぶきやうを諳そらにせし者ものなり。提婆達多だいばだつたは六万八万まんの宝蔵ほうぞうを覚おぼえ、十八變へんを現げんせしかども、此等これらは有解無信うげむしんの者ものなり。今いまに阿鼻大城あびだいじやうにありと



聞く。又鈍根第一の須(周)利槃特は、智慧もなく悟りもなし、只一念の信ありて普明如来と成給う」

〃 仏道を修行しようとする者が実践すべき五十二の位階の中でも、十信の位をもって根本としている。この十信の中でも、信心が最初の位となっている。たとえ悟るところがなくとも、信心のある者は学識や才能の低い鈍根であっても、正見の者といえる。かりに才能があつて悟りがあつたとしても、信心のない者は、仏になるべき種子を断じてしまった者である。例をあげてみるならば、善星比丘という人は二百五十もの戒をたもち四種の禅定を悟り、仏一代の経典を暗記したほどの者である。また提婆達多は六万とも八万ともいわれた数多くの経典をおぼえ、十八種類に及ぶ神通変化の術を現わしてみせることができたが、智慧は優れていても信心が欠けていたので、今でも阿鼻地獄に堕ちているということである。それに反して鈍根の第一といわ



れた須(周)利槃特は、智慧もなく悟りもない人であったが、ただ一念の信心があったので、普明如来となられたのである。

孔子の弟子・曾子

孔子の弟子に曾子(呼び名は参)という人がいますが、その人のことを孔子は「ああ、参はのろまだね」と『論語』の中で言われています。

曾子は孔子より40歳くらい年下で、孫のような存在でした。その曾子を孔子は非常に可愛がりました。あまり要領は良くないけれども、言われたことを一心に実行したからです。

やがて曾子は孔子の孫・子思の家庭教師になりました。そして、その子思が孟子を教えたのですから中国を代表す



る思想家・孟子がこの世に出たのは曾子の功績が大であったと言えると思っています。

ある時、大勢の弟子に囲まれた中で孔子が「曾子よ。我が道は一筋の道で貫かれていゝ」と言う、曾子は「はい」と答えました。そして、孔子がその場を離れると、弟子の一人が「あれはどういう意味ですか」と曾子に尋ねました。すると曾子は「孔子先生が貫いたものは一つ、忠恕だけなのです」と言いました。「忠恕」とは「慈悲」のことです。愚直なまでに孔子の言われたことを実行し、孔子の生き方に間近でずっと触れてきた曾子には、その教えの深いところが即座にわかったのです。

孔子が曾子に説いた『孝経』という書物があります。この中には「親孝行」のことが書かれています。



ある日、家でくつろいでいた孔子が傍にいた曾子に問いかけます。

「昔の優れた人たちは無上の徳を備え、正しい道を踏み行って天下万民を教え導かれた。それで万民は睦まじくなつて、上の者も下の者も不平を抱いて憎みあうことが無くなつた。お前はその無上の徳、正しい道とはどのようなものか知っているか」

曾子はすぐに居ずまいを正して答えました。

「私のような愚かな者がそのようなことがわかるはずがありません」

すると孔子は言いました。

「よいか。孝行があらゆる道徳の根本なのだ。我が身は両手両足から髪の毛、皮膚の末々に至るまですべて父母から頂戴したものである。それを大切に守って傷めつけないようにするのが孝行のはじめなのだ。立派な人物になり、正



しい道^{みち}を行^{おこな}い、名^なを後世^{こうせい}までも高く掲^{かか}げて、父^ふ母^ぼの名^なを広く社^し会^{かい}に知^しらせる。それが孝^{こう}の終^おわりなのだ」

曾^{そう}子^しは亡^なくなる時^{とき}に自^じ分^{ぶん}の手^て足^{あし}を「どこにも傷^{きず}などないだろう」と言^いって、弟^で子^したちに見^みせたそうです。そして「孔子^{こうし}さまに『父^ふ母^ぼからいただいた身^{からだ}体を大事^{だいじ}にせよ』と言^いわれたから、私^{わたし}は生^{しょう}涯^{がい}、身^{からだ}体を大事^{だいじ}にしてきたのだ」と言^いったのです。

曾^{そう}子^しは一心^{しん}に孔^{こう}子^しの教^{おし}えを守^{まも}ったのです。孔^{こう}子^しの教^{おし}えを本^{ほん}当^{とう}に実^{じつ}行^{こう}して、弟^で子^したち^らに伝^{つた}えたのです。だから孟^{もう}子^しにも、孔^{こう}子^しの教^{おし}えが正^{ただ}しく伝^{つた}わっていったのです。

師^し匠^{しょう}の教^{おし}えを守^{まも}る

最^{さい}近^{きん}、ある雑^{ざつ}誌^しで、小^{しょう}児^に外^げ科^かと消^{しょう}化^か器^き外^げ科^かの専^{せん}門^{もん}医^いの対^{たい}



談を読みました。その対談の中で二人の医師は共通する話をしています。

手術後は絶対に合併症を起こさせてはならない」ということです。

合併症とは、手術後に新たな重い病気に罹ることです。

一人の医師は「手術の時に血を出してはいけない」と師匠から言われたそうです。血を出すと後で合併症になりやすいからです。だから「時間がかかってもよいから血をできるだけ出さな」というのが師匠の教えだったそうです。するともう一人の医師も「私も同じです。『出血は最小限にせよ』と教えられました。だから、私も手術の時間がかかることがあります。ある学会で手術が遅いことを指摘されましたが、私は『手術は時間を競うものではありません』



と反論しました」と言っていました。

以前、この医師の所に中国から研修医が来たことがありました。その研修医も「先生は手術が遅いですね」と言っていました。そこで、「手術は時間ではない。とにかく血を出さないことが大事なのだ。そうすれば合併症のリスクが少なくなる。手術をした後、心配がない。これが大事なことだ」と言うと、得心がいったのか、中国に帰ったその研修医は、ゆっくり丁寧に手術をするようになったそうです。他の医師からは「日本で何を憶えて来たのだ」と言われたそうですが、その医師が手術すると合併症が起らないので評判が良くなり、患者さんが大勢来るようになったそうです。

余談ですが、国が補助をしている医療費は毎年どんどん増えており、去年は過去最高の41・5兆円だったそうです。



このことに対して心臓外科の権威で先年、天皇陛下に手術を施された順天堂大学付属病院院長の天野篤先生は外科医の立場から、医療費を減らすには合併症を減らすことだとおっしゃっています。合併症で重い病気になる場合、一人1億円くらい余計にかかることがあるそうです。だから合併症を減らさなければいけないと天野先生は言われるのです。

そして、天野先生もやはり「血を出さないようにするべきだ」と言われていますが、「手術は速いのが良い」とも言われています。前出のお二人の先生と違って天野先生の場合、専門は心臓手術なので、例えば、人工心肺を長時間付けておくと合併症を引き起こす可能性が高まるのだそうです。

師の教えはどの分野でも経験に基づくものです。ですから師の教えを愚直に守り通すことは、どんな世界でも大事だと思えます。



謹賀新年

日蓮宗

法音寺

自説誓言

憂きつらき

心にそわぬ

ことをみな

善きに悟りて

よろこびを得よ

—— 二祖 宗玄大徳御詠 ——

平成二十九年元旦

講話日・毎月七日・十七日・二十七日



内局委員会
評議員会



進師法縁法音会
檀信徒代表者会
全国信教師会

皆様のご多幸をお祈り申し上げます

支院名・主管者(担任)名	住 所・T E L	毎月の講話日
高槻支院・関哉妙綾	大阪府高槻市天神町1-9-2 〒569-1117 ☎(072)685-1003	第1日曜日 11日・21日
大阪支院・古山昭顕	大阪府大阪市此花区西九条3-4-41 〒554-0012 ☎(06)6465-5051	第2日曜日 23日
福井布教所・田中裕	福井県あわら市春宮3-28-2 〒919-0632 ☎(0776)73-5234	第3土曜日
和泉支院・上田智淳	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404 〒598-0091 ☎(0724)66-3112	第1日曜日 14日・22日
神戸支院・田中常行	兵庫県神戸市兵庫区五宮19-17 〒652-0007 ☎(078)360-4884	第2土曜日 21日
淡路支院・田中常行	兵庫県南あわじ市神代国衙910 〒656-0455 ☎(0799)42-0175	5・15・25日
岡山支院・梅田浄顕	岡山県岡山市南区若葉町1-16 〒702-8047 ☎(086)262-0818	第1日曜日 7日・23日
高知布教所・山本雅子	高知県高知市上町5-5-39 〒780-0901 ☎(088)823-1983	12日
福山支院・宮崎良祐	広島県福山市西町3-19-5 〒720-0067 ☎(084)921-3078	1日 第3日曜日
三原支院・森野智広	広島県三原市皆実2-9-22 〒723-0052 ☎(0848)62-5087	第2土曜日 第4日曜日
安芸津支院・湯本妙順	広島県東広島市安芸津町三津3765-3 〒739-2402 ☎(0846)45-4012	第1土曜日 第4日曜日
坂支院・三宅善祐	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12 〒731-4313 ☎(082)885-1064	第1、又は 第2日曜日
福岡支院・大庭圓昭	福岡県福岡市早良区城西2-11-37 〒814-0003 ☎(092)821-7975	第1日曜日 第3日曜日 15日
壱岐布教所・三好イシ	長崎県壱岐市石田町池田東触1112 〒811-5221 ☎(0920)44-5445	13日・23日
筑後布教所・蒲池厚	福岡県筑後市大字西牟田5954-1 〒833-0053 ☎(0942)53-7273	第2日曜日 第4日曜日
天草布教所・大庭持念	熊本県上天草市大矢野町維和1502-1 〒869-3604 ☎(0964)58-0742	1日
田川支院・手嶋敬徳	福岡県田川市春日町7-30 〒826-0026 ☎(0947)42-1819	第2日曜日 第4日曜日
名古屋地区・島田知教	愛知県名古屋市中区和区駒方町3-3 〒466-0832 ☎(052)831-7135	7・17・27日
瀬戸布教所・小島章義	愛知県瀬戸市東本町2-20 〒489-0816 ☎(0561)85-6860	9・19・29日
亀岡布教所・田中節子 田中悠子 山藤明江 嶋崎婦美子	京都府亀岡市篠町篠牧田73-1 〒621-0826 ☎(0771)25-7807	第2月曜日 第4日曜日

謹 賀 新 年

支院名・主管者(担任)名	住 所・T E L	毎月の講話日
大乗山 泰明寺・鈴木修徳	愛知県名古屋市中村区名駅2-37-3 〒450-0002 ☎(052)581-2069	5日・20日
開基堂・高浪慈成	愛知県江南市寄木町天道18 〒483-8184 ☎(0587)53-5436	10日
東京支院・猪原善昭	東京都練馬区谷原2-6-37 〒177-0032 ☎(03)3904-1251	第1日曜日 15日 第4土曜日
山形布教所・小山幸子	山形県山形市長町2-4-6 〒990-0811 ☎(023)681-0770	10日
静岡支院・新庄義真	静岡県磐田市城之崎4-7-3 〒438-0084 ☎(0538)32-6625	2・12・22日
豊川支院・三宅善祐	愛知県豊川市中野川町1-26-3 〒442-0885 ☎(0533)86-4704	4日・20日
安城支院・島田行学	愛知県安城市新田町小山31-25 〒446-0061 ☎(0566)76-2504	第1、又は、 第2日曜日 18日・28日
明川支院・毛利行徳	愛知県豊田市明川町堂ノ脇1-2 〒444-2601 ☎(0565)67-2231	11日 第4土曜日
佐屋支院・村上善立	愛知県愛西市大井町浦田面296 〒496-0921 ☎(0567)32-1825	4日 第2日曜日 24日
一宮支院・伊藤妙清	愛知県一宮市大江1-7-4 〒491-0851 ☎(0586)72-7208	5・15・25日
西春支院・渡辺英覚	愛知県北名古屋市九之坪東ノ川20 〒481-0041 ☎(0568)22-5813	2・12・22日
岐阜支院・前原智明	岐阜県岐阜市切通7-15-22 〒500-8237 ☎(058)245-2939	4・14・24日
笠松布教所・岩田正揮	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23 〒501-6042 ☎(058)388-2740	12日
大垣支院・香村浄音	岐阜県大垣市宝和町5 〒503-0972 ☎(0584)78-4854	1・11・21日
関支院・吉橋顕良	岐阜県関市西福野町2-15-11 〒501-3244 ☎(0575)22-0776	3・13・23日
平賀支院・後藤善晃	岐阜県関市市平賀213-2 〒501-3822 ☎(0575)23-3771	5・15・25日
郡上八幡支院・渡辺義彰	岐阜県郡上市八幡町小野721-3 〒501-4221 ☎(0575)65-3933	8日・22日
四日市支院・祖父江瑞法	三重県四日市市赤堀2-4-7 〒510-0826 ☎(059)352-3633	3・13・22日
上野支院・橋本道念	三重県伊賀市上野向島町3475 〒518-0875 ☎(0595)21-0127	1・11・21日
京都支院・安藤順冠	京都府京都市上京区北横町360 〒602-0818 ☎(075)231-3437	1・9・20日

謹んで新春の お慶びを申し上げます

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設

駒 方 寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小 原 学 園

■障がい者支援施設

小 原 寮
泰 山 寮

■特別養護老人ホーム

安 立 荘
高 浜 安 立 荘
小 原 安 立

■障がい福祉サービス事業

授 産 所 高 浜 安 立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム高浜安立

■自立援助ホーム

慈 泉 寮

■保 育 所

駒 方 保 育 園
光 徳 保 育 園
天 王 保 育 園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
<http://www.syoutokukai.or.jp>

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院 ■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校 ■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
<http://www.n-fukushi.ac.jp>



新春特集 講演抄へ4



幸しあ
福わせ
の
源げん
泉せん

身の周りをきれいにしましょう

イエローハットの創業者・鍵山秀三郎さんは「掃除の菩薩」として有名な方ですが、このようなことを言われています。「とにかく掃除をして、日本中いや世界中をきれいにしたい。中でも、一番汚れやすいトイレの掃除に力を入れたい」と。そして現実には、日本だけにとどまらずアメリカ・ヨーロッパ・中国などにも出掛け、その運動を広げられています。

「どうしてそういうことをされるのですか？」とある人に聞かれた時、「本当は人の心を磨いてきれいにしたいのだけれども、心は取り出して磨くことはできないから、まず周囲をきれいにするのです。人の心はまわりに影響されやすいものです。まわりをきれいにすれば心も自ずときれいになると思うからです」と言われましたが、実際に掃除のすばらしさがさまざまな面で確認され、報告されています。

感謝は人類繁栄の法則です

日蓮宗では毎年、寒中一百日の大荒行が行われています。

大荒行は睡眠時間を極限まで削ってお経をあげ続け、その合間に水行をしたり、写経をしたりします。食事は朝夕二回、おかゆとみそ汁を一杯ずつ食べるだけという、本当に命を削るような修行です。

何のためにするかというと、悟りを得るためです。その悟りの一つが「感謝を知る」ことです。『ありがたい』という心をつくるのです。

感謝は、繁栄のもとです。健康のもとでもあります。心から感謝のできる人は物事がうまくいき、健康にもなれ、家も商売も繁栄するのです。逆に感謝のできない傲慢な人は、何をやってもうまくいきません。当然病氣にもなりやすいです。感謝は、人類繁栄の法則と言ってもいいと思います。

いまあるものに感謝しましょう

片腕かたうでのプロゴルファー・小山田雅人こやまだまひとさんは二歳ふたさいの時に事故じこで右腕みぎうでを切断せつだんしましたが、いろいろなスポーツを普通ふつうの人ひと以上にいじょうにできました。高校卒業こうこうそつぎょう後に「ゴルフをやってみたい」と、左手ひだりてでクラブを持つて始めました。右手みぎての義手ぎしゅは支えるだけですが、そんな状態じょうたいでゴルフを始めたのですが、どんどん上達じやうたつしてハンディキャップゼロのスクラッチプレイヤーになりました。その後、結婚けっこんをして奥さんおくさんに「もう少しゴルフの腕うでを磨みがいてプロになりたい」と言いったそうです。普通ふつうですと「また、馬鹿ばかなことを考かんがえて」と言いわれそうですが、奥さんおくさんは「頑張がんばって」と言いったのです。

そんな折おり、頭あたまが痛いたくなり、変へんだと思おもって病院びやういんに行いくと左側頭葉ひだりそくとうように脳腫瘍のうしゅようが見みつかりました。手術しゅじゆをして無事ぶじに腫瘍しゅようは取とれたのですが、それから体たい重じゆうがどんどん減へって20キロ瘦やせ、それまで270ヤードくらい飛とんでいたのが200ヤードくらいしか飛とばなくなっていました。「これではプ

ロゴルフアーは無理だな」と愚痴を言っていると、奥さんに「何を言っているの。訓練したらわからないわよ」と言われ、野球用の重いマスコットバットを左手一本で三年間振り続けたと言います。そして、めでたくプロゴルフアーになることができました。

「ないものを嘆くより、あるものに感謝しましょう。私は右腕を無くし、左側頭葉の大部分を無くしました。しかし、残った左手と右の脳に感謝して今やっています。人間は誰でも、人生でいろいろなものを無くしますが、無くしたのではなく今あるものに感謝をしましょう。そうすれば必ず道は開けます。幸せになれます」と小山田さんは言っておられます。

常に世のため人のためと心掛けましょう

一昨年、二人の日本の学者さんがノーベル賞を受賞されました。その一人、生理学・医学賞を受賞された北里大学特別荣誉教授の大村智先生は、エバーメクチンという物質を発見し、それを元に薬を作って延べ二億人もの人を失明から救ったと言われています。また、人間だけでなくこの薬は、動物を伝染病から救うのにも役立てられています。

大村先生が受賞後、多方面の取材を受け「少しでも世のため、人のためになることができないかと、ひたすらそれだけを心掛けてやってきた」と答えられていたのを聞いて、発明・発見というものは慈心からだなとつくづく思いました。

立派な方はやはり、慈悲の心が深いのです。

堪忍の徳を積みましよう

杉山先生の時代、仏教化救済会の財産はすべて杉山先生の個人名義でした。そのため、杉山先生がご遷化された後、杉山家の代表を名のる人が「杉山辰子名義の財産のすべてを杉山家が相続する」と言ってきました。その時、会を思う人々が「法律によって会の安泰を図っては」と進言されましたが、村上先生は「冷たい法律によって事態を処置したならば、私の三十年に渡って修養してきた堪忍の徳もたちまち水泡に帰してしまいうであらう。これは諸仏善神が私を試されているに違いない」と悟られ、相手に寛容な態度を示し、会の人々にもそのように話されて難局を乗り越えられました。

この後、組織は法人化され財団法人大乘報恩会となり、各地の支部もどんどん増え、会員数は杉山先生ご遷化の頃の十倍にもなったそうです。村上先生の堪忍のお徳が働いたのだと思います。

「笑い」で自然治癒力を高めましょう

「笑い」を医療に取り入れている高柳和江先生に友人のお医者さんから「先生、悪性リンパ腫になってしまいました。第四期なんです」と連絡が入りました。高柳先生はその時「とにかく笑いなさい」と伝えました。するとその方は入院中、毎日、大阪城に行って大きな声で笑ったそうです。しかし、それから三カ月後「もう笑えません。脊髄に転移しました」と言っていました。高柳先生は「笑いが足りない。自然治癒力で治るものは治る。大いに笑って自然治癒力を育て、健全な細胞の分裂・分化を促進させましょう」と連絡したそうです。それを聞いてその人は、抗がん剤の点滴を受けながらも大いに笑って、周囲をも笑わせたそうです。それから一年経って、高柳先生にうれしい連絡が入りました。「奇跡です。腫瘍が消えました。感動しています。ありがとうございます」ということでした。

情緒豊かに楽しく過ごしましょう

日蓮聖人が「命と申す物は一身第一の珍宝なり」(※可延定業御書)と述べておられますように、人間にとって「命」以上の宝物はありません。命が無ければ徳を積むこともできませんし、いくらお金があっても、命が無ければ何の価値もありません。

長生きの秘訣はいろいろあると思いますが、笑ったり、おもしろいこと、楽しいことを考えて日々を過ごすことも大事ではないでしょうか。笑うことによつて脳が活性化されます。認知症が問題になっていきますが、これも、ぼーっとしている時間が長く続くとなりやすいそうです。仕事をするのも大事ですが、いろいろなものを見たり聞いたりして、情緒豊かに、楽しく過ごすことが大切です。

※可延定業御書Ⅱ法華経に依りて定業を延ぶべき事

ほめること、感謝することが健康の種です

『生命の暗号』という本を著わされた遺伝子研究の第一人者、村上和雄先生のお話です。

人間には日々さまざまなストレスがかかります。そのストレスには二種類あります。ポジティブ（積極的）ストレスとネガティブ（消極的）ストレスです。

ポジティブストレスは、ほめられたり感動したり、また笑ったり、「ありがとうがたいな」と感謝する中に生まれます。

ネガティブストレスは、人から罵倒されたり嫌なことを体験すると生まれます。

この二つのストレスについて村上先生は「ポジティブストレスを受ける」と血圧や血糖値が下がり、ネガティブストレスを受けると上がる」とおっしゃっています。

その村上先生は十数年前、お笑い芸人のB & Bに協力してもらい、その実験をされました。初期の糖尿病の患者さんを二十人程集め、二日に分けてこんなことをされたのです。

一日目。軽い昼食後、専門のお医者さんに「糖尿病はいかに怖いか」という話をしてもらいました。

すると、食前に測った血糖値よりも平均で123ミリも上がっていたそうです。人によっては200ミリ以上も上がったそうです。「糖尿病は怖い」と聞いて血糖値が上がってしまったのです。

二日目。同じように昼食後、B & Bの漫才を聞いてもらいました。そうしたら笑いによって、血糖値は平均して77ミリ下がっていたと言います。これを世界に向けて発信すると世界中から「B & Bという特効薬を分けてほしい」という、笑い話のような問い合わせが殺到してびっくりされたそうです。

常に一期一会の精神で臨みましょう

茶道三千家の始祖・千利休が、ある茶会に行った時のお話です。利休を招待した人が亭主となってお茶をたてましたが、亭主は緊張のあまり茶杓でお茶を取る際に震えて、こぼしこぼしやっていたそうです。出席者はみな、口を押さえて笑ったといえます。ところが、亭主が何とかお茶をたて出すと利休はそれを飲み、「あっぱれな点前であった」と言ったそうです。

昔からお茶の世界では「慣れなければならないが、慣れてはならない」と言われています。また「生まれて初めて点前に立ち向かった時の初心を忘れないように。初めてたてた一服も生涯でたった一度。二服もたった一度。過ぎ去った時の流れが再び戻ってこない以上、どの瞬間もどの所作も生涯たった一度であることを忘れず、慎んで立ち向かいなさい」とも言われます。「二期一会」の精神です。

何事も一生懸命に取り組みましょう

岐阜支院の前主管・丹羽上人から聞いたお話です。昔、鈴木慈学上人はお元氣な頃、講日のたびに岐阜に赴かれていました。ある時、一人の信者さんが「たまには夜の法座もやっていただけませんか」と言われるので、丹羽上人が慈学上人に相談をしたところ「昼に来て、そのまま夜までいてやればいいから」と夜の法座もされるようになりました。しかし、夜はあまり人が集まらなくて一人しかない時がありました。そこで「今日は信者さんはお一人だけですが、どうされますか」と聞くと慈学上人は「やるよ」と言われ、お勤めの後一対一でご法話をされたそうです。その後、丹羽上人が「次回もし一人も来られなかったらどうしましょうか」と聞かれると「柱に向かってご法話をすればいい」と言われたそうです。慈学上人には、うまく話そうとか、人から良く思われたいというような気持ちがい切無く、ただ法華経を正しく、一生懸命説くという心のみだったので。

法華経の実行をして人を助けることが大切です

御開山上人は生涯「如我等無異」（我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す）というお釈迦さまのお言葉を、ご自分の人生の指針とされましました。

御開山上人が、本当の幸せを求めて初めて杉山先生の所に行かれた時、杉山先生は、御開山上人をひと目見るなり「あなたは自分の正体がわかっていますか」とおっしゃられ、「あなたは特別な魂を持っている人です。あなたにはあなたにしかできない特別な仕事があります」と言われたそうです。それに対して御開山上人が「私はただ本当の幸せを求めているだけです」と伝えると「あなたが本来の使命を果たすことによって、本当の幸せを手に入れることができるのです。それが法華経の実行です。世の中の苦しんでいる人を助けてあげるのです」とおっしゃられたのです。そこから御開山上人の「如我等無異」のご生涯が始まりました。

自分の心を柔らかくして相手の心に従うことが大切です

御開山上人が杉山先生に出会われてすぐに教えられたことが「法華經を信仰する者が親の心に従わないようではいけない」ということでした。

御開山上人は長男でしたし、お父さまは非常に厳格で、頑固な方でしたから、家を捨てて杉山先生に弟子入りすることを話せば大反対されることは目に見えていました。ですから相当悩まれたようですが、御開山上人は杉山先生の言われた通り、何事も親に従って、許していただくこうと決意を固め、実行されました。

それから三年ほど経った時、お父さまが「私は良い息子を持った。こんなに私の言うことを聞いてくれる者はいない。私は幸せ者だ」と言われ、弟子入りの件についても、「お前の好きにして良い」と認めてくれたのです。自分の心を柔らかくして相手の心に従っていくと、相手も必ず自分の心に従ってくれるのです。

修養を続けて人格を磨きましよう

五千円札で有名な新渡戸稲造博士が著書『修養』の中で「決心の継続こそが修養の根幹である」とおっしゃっています。

そしてそのコツとして、〃一定の年限を設けてその間をまず頑張ること〃を勧められます。博士が学ばれた札幌農学校の設立者・クラーク博士は学生に「飲酒・喫煙・賭博」の三つを禁止することを誓わせました。それは、二人の保証人をつけて誓いの文を読むという厳粛なものでしたが、「在学中だけ」という期限つきでした。これに対して「在学中だけでは効果がない」という人もありましたが、実際には、在学中に厳重に誓いを守ることによって一生誓いを守り通した、という人もかなり多かったです。法音寺の『今日一日の堪忍』も同じです。御開山上人は杉山先生から当初「半日の堪忍をしなさい。半日できたら、もう半日と続けなさい」と言われたそうです。これが一カ月、半年、一年となり、御開山上人のご生涯

にわたつて堪忍が守られたのです。

決心を継続するための日常のコツとして新渡戸博士が札幌農学校にいられた時、学生に「ここだな」という観念を持つことを教えました。これは、何かあつた時に「平生自分が修養しているところの価値が試されるのは『ここだな』と思つて力を入れてやる」ということです。例えば「勉強をしていて怠け心が出たら『あつ、ここだな』と反省して、勉強に戻る。早起きすることを続けていて、朝起きたくない時に『あつ、ここだな』と思つて眠い目をこすつて起きる。怒気が生じた時には『ここだな』という観念をより強くして怒りに堪える。しかし、怒りに関しては、毎朝起きる前に、常に『今日は断じて怒気を起こすまい』と予防薬を飲むように心掛けるなら、きざしかけた怒気も、これを抑えやすくなる」と言つておられます。

修養によつて人間の器が作られ、そして磨かれていきます。

どんなに苦しくてもにこやかにふるまいました

新渡戸稲造博士が著書『世渡りの道』の中で次のように述べておられます。

「かつて聖書を読んだ折、しばしば『汝、心安かれ』という句に出会った。その後、聖書全体を通じてこの句が40回も出てくることを知った。新約にも旧約にも、不愉快の時、艱難の時、あるいは病気にかかり、貧乏となり、はたまた罪のために苦しむ時、そこにこの語が繰り返されている。愉快らしい顔をするには、たいしてむずかしいことではないと思っていたが、聖書にしばしば示されてあるのを見てから、なるほどこれは容易ではないことであり、宗教的に考えるとすこぶる重く、かつ実行しようとしてはじめてその重みがわかることだと思った」

人生の中では不快な出来事に遭遇することが多々あります。そういう時、怒りを外に表さず、愚痴をこぼさず、不幸を語らないで、機嫌良くすることは大いなる修養であると思います。

人間の器量は修養によって大きくなり、
また何歳なんさいになっても変わるかことができる
のです。決心けっしんすれば明日あすからでも、いや
今いまからでも変わるかことはできます。

聖の教え

《日蓮聖人の事の三》

(十三)

◇詮するところは天も捨て給え、諸難にも値え、身命を期とせん。身子が六十劫の菩薩の道を退せし、乞眼の婆羅門の責を堪えざるゆえ。久遠大通の者の三五の塵を經る、惡知識に値うゆえなり。善に付け惡に付け、法華經を捨つるは地獄の業なるべし。大願を立てん、日本國の位を讓らむ、法華經を捨てて觀經等に就いて後生を期せよ、父母の頸を刎ねん、念佛申さずばななどの、種種の大難出來すとも、智者に我が義破られずば用いじとなり。其の外の大難風の前の塵なるべし。我日本の柱とならん、我日本の眼目とならん、我日本の大船とならん等と誓いし願破るべからず。

開目鈔・下 八三〇頁

◇日蓮はこれ法華經の行者なり。不輕の跡を紹繼するの故に、輕毀する人は頭七分に破れ、信ずる者は福を安明に積まん。

聖人三世を知るの事 一三三〇頁

三大誓願のお話

日達上人御講演抄・『月刊法音』第一四〇号 五頁

『我日本の柱とならん』

我日本の眼目とならん

我日本の大船とならん』 〓 日蓮聖人。

『我閻浮提の太陽とならん』

我煩惱を能く断ず

我妙法を以って仏を成ぜん』 〓 安立大法尼。

この三大誓願はいずれも『主・師・親』の三徳を具えております。三徳は、本仏、本当の仏

さまが具えておられる三つの徳であります。

譬喩品に、この三つの徳が説かれております。

『今此の三界は、皆是れ我が有なり』 〓 主の徳であります。

『其の中の衆生は、悉く是れ吾が子なり』 親の徳であります。

『唯我一人のみ、能く救護を為す』 師の徳であります。

この主・師・親の三徳について日蓮聖人は、次のように述べておられます。

『釈迦如来は、我等衆生には親なり、師なり、主なり。我等衆生のためには、阿弥陀仏・薬師仏等は主にてはましませども、親と師とはましまさず。ひとり三徳を兼ねて恩ふかき仏は、釈迦一仏に限りたてまつる。親も親にこそよれ、釈尊ほどの親、師も師にこそよれ、主も主にこそよれ、釈尊ほどの師主は有り難くこそはべれ。この親と師と主との仰せを背かんもの、天神地祇に捨てられたてまつらざらんや。不孝第一の者なり』 南條兵衛七郎殿御書。

ひとり三徳を兼ね具えた仏とは、究竟の仏、仏の中の仏、本当の仏さまのことであります。それは、如来寿量品の「久遠実成の本師・釈迦牟尼世尊」であります。その本仏の具えておられる主・師・親の三徳に立脚して、それぞれ、ご自分の誓願としておられるのであります。

日蓮聖人の誓願

『我日本の柱とならん』 私に日本という国土の柱となる、つまり「主」であります。

『我日本の眼目とならん』眼目とは、手本とでも申しませうか。見宝塔品の偈文「此経難持」に「是諸天人、世間之眼」とありますが、これは、持ち続けることの難しい法華経を持つことのできる人は、大勢の人々や、天人の手本となる人、つまり、「師」である、と説かれているのであります。

『我日本の大船とならん』大きな船は大勢の人を乗せることができます。日本中の人を乗せて生死の大海を無事渡らせ、彼の岸（幸せの境涯）に到らせようとおっしゃるのです。「親」の徳と申せませう。

この三大誓願は、開目鈔に著わされております。

『詮するところは天も捨て給え、諸難にも値え、身命を期とせん。——善に付け悪に付け、法華経を捨つるは地獄の業なるべし。大願を立てん、日本国の位を譲らむ、法華経を捨てて観経等に就いて後生を期せよ、父母の頸を刎ねん、念仏申さずばなんどの、種種の大難出来すとも、智者に我が義破られずば用いじとなり。その外の大難風の前の塵なるべし。我日本の柱とならん、我日本の眼目とならん。我日本の大船とならん等と誓いし願破るべからず』

一生がどのように苦しかりうとかまわぬ。たとえ、法華経を捨てて念仏を申すならばすべ

ての願ねがいを聞きき届とどけよう。日本にほんという国くにの王おうにもしてあげようと言いわれても、また、捨すてなければ父ふ母ぼの頸くびを切きると言いわれても、法華經ほけきょうを捨すてて念ねん仏ぶつを唱となえることはできないい。そのために蒙こうむるいかなる迫はく害がいもすべては、風かぜの前まえのチリちりのような物ものと法華經ほけきょうに對たいしての信しん念ねんを述のべ、日本にほん国こくの柱はしらとなり、人々ひとびとの眼がん目もくとなり、人々ひとびとを導みびく大船たいせんとなって法華經ほけきょう宣せん布ぶに命いのちを賭かけてゆくとの決けつ意いを、生しょう涯がいの大誓願だいせいがんとしておられるのであります。

この決けつ意いの通とりのことが、佐渡流罪さどるざいを赦ゆるされて鎌倉かまくらに戻もどられた後起あとおきたと言いわれております。それは、時ときの幕府ばくふが日蓮聖人にちれんしょうにんに對たいして「土地とちを寄進きしんし、お寺てらを建たてて与あたえよう」と申もうし入いれをしたのです。当時とうじの状じょう況きやうを考かんえますと、この申もうし入いれは幕府ばくふにとって大變たいへんな讓步じやうほと言いえましょう。憎にくくて憎にくくて仕方しかたがなく、死罪しざいにしようとした日蓮聖人にちれんしょうにんにお寺てらを与あたえようというのですから、破格はかくな申もうし入いれであります。しかしそれは、日蓮聖人にちれんしょうにんの大願だいがんとする「一天四海いつてんしかい・皆歸かいき妙法みょうほう」にはほど遠とほいものであります。法華經ほけきょうを奉持ぶじする「本門ほんもんの戒壇建立かいだんこんりやう」という願ねがいとは、うらはらなものであったのです。ですから日蓮聖人にちれんしょうにんはその申もうし出でをあっさり断ことわって、身延みのぶの山やまに入はいられ、以後いごのご生しょう涯がいをご自じ分ぶんの一層いっそうの修養しゅうやうと、お弟子でしの養成ようせいにかけられたのであります。ここに、法華經ほけきょうに對たいする日蓮聖人にちれんしょうにんの行ぎやう者しやとしての真髓しんずいがみ見みられると言いえましょう。いかなる

迫害も、逆に、世俗的でないかなる栄耀栄華も、法華経信仰の前にはすべて、風の前のチリのようにはかないものと一蹴され、一切惑わされることはなかったのであります。

安立大法尼の誓願

『我閻浮提の太陽とならん』太陽はこの太陽系宇宙の中心であり、また、一つしか存在いたしません。二つあれば大変なことになってしまいます。主もまた、そうしたものと言えましよう。『我煩惱を能く断ず』貪・瞋・痴という三毒を断つてゆく、と言われるのですが、この現実の世界にあって煩惱を断つことは、なかなかできるものではありません。師匠なればこそであります。

『我妙法を以って仏を成ぜん』大勢の人々も、安立大法尼のような大きな心から見れば子どものようなものかも知れません。その人々に妙法、つまり、慈悲・至誠・堪忍の実行を教えることによって仏の境遇に導いてゆく、と言われるのです。親の愛が感じられるのであります。

安立大法尼のご法話に、「私は常に安楽なる境涯を過しておりますので、皆様をもこの境涯に至らしめんとするのであります」という一節があります。

安立大法尼のご生涯に思いをいたします時、とてもご自身のおっしゃられるような「安楽な境涯」であったとは思われません。当時の人に「仏教化救済会」をもじって、「ボツコクワンカ救済会」と悪口されたほど、今から言えば貧しい生活に終始しておりました。食べる物と言えば、近所の人々の買い残した野菜や魚のクズみたいなものを安く買い、着る物と言えば、つぎはぎだらけのボロを着ておられたのであります。ご自身はどのような最低の生活をされながら、飢えに苦しむ人、寒さに震える人、病気で苦しむ人には、何物をも惜しまず施され、救済してこられたのであります。まさしく安立行菩薩の誓願「衆生無辺誓願度」を、身を以って実践されたのであります。ご自分では一度もそのようなことを言われたことはありませんが、その自覚は、しっかり心にあつたと、私は思います。

本仏と凡夫の関係 究竟の仏の具えておられる主・師・親の三徳と、日蓮聖人・安立大法尼の三大誓願とのかかわりについて考えてみたいと思います。本仏しか具えていない三徳を、なぜ日蓮聖人が、そして安立大法尼が持ち得て、誓願とすることができなのか、ということなのです。

このかかわりを解いてゆくには、本仏と私共の関係について考えてゆかなければなりません。

この基は「一念三千の観法」にあると言えます。

仏・菩薩・縁覚・声聞・天上・人間・修羅・畜生・餓鬼・地獄という十法界が、それぞれに十界を具足して百界、その百界に十如是（相・性・体・力・作・因・縁・果・報・本末究竟等）、三種世間（衆生・国土・五陰）がかけあわされて三千の世界となるわけですが、この世界がすべての人の心に具わり、人間は三千の世界を常に展開させている、という法門であります。

これは法華経方便品の十如是を基として立てられたものですが、日蓮聖人は、『一念三千は十界互具よりことはじまれり』（開目鈔）と述べておられます。方便品に代表される法華経迹門（前半十四品）の一念三千はまだ不十分なものであり、寿量品に至って初めて完成する、と言われるのです。

法門で説かれます主なことは、私共のような凡夫でも仏に成れる、ということですが、ここで教えられますのは、「私の心に仏がある」ということです。これを日蓮聖人は『九界所具の仏界』と述べられております。九界とは、仏界をのぞいた菩薩界から地獄界までを言います。この九界に仏界はあるけれども、仏界に九界があるとはここまででは言えないのであります。

では、本門・如来寿量品では何が説かれるのでしょうか。寿量品の肝心は、「インドで生まれ修行し、悟りを開いた『釈迦』という仏さまは実は仮の姿であって、本当の私『仏』は過去・現在・未来の三世に亘って尽きることはない命を有した『久遠の本仏』である」という、お釈迦さまのご宣言にあります。お釈迦さまは寿量品に於て初めて本仏の实体を明かされ、「私はあなた方をその間ずっと、今に至るまで、いろいろな形を現わして教化してきました。さらに、未来永遠に亘っても同じように教化してゆく」と、仏法の真髓をここで説き明かされたのであります。ここに於て初めて「十界互具は完成」したと、日蓮聖人は『仏界所具の十界』という言葉で顕わしておられます。

仏さまは久遠であり、私共凡夫の魂も、やはり久遠ということが教えられるのであります。寿量品によつて初めて、仏さまと私共は一体のものであり、ともに久遠の生命を有している、と信ずることができるのであります。

天台大師は「師弟ともに久遠」という言葉で、これを顕わしておられます。

ここに、究竟の仏の有している主・師・親の三徳を、高いところから見れば凡夫と言える日蓮聖人も安立大法尼も、持つことのできる理由があるわけです。究竟の仏と私共は、法華経・

如来寿量品の真髓しんずいによって一体たいに結むすばれている。そして、過去・現在・未来にわたって魂たませいは生き続けているという悟りさととも言えましょう。究竟の仏ぼつから久遠の命いのちを頂いたいている者が、それをどうこの現実の世界せかいに生いかしてゆくか、その自覚じかくが日蓮聖人は『我日本の柱はしらとならん、我日本われにほんの眼目がんもくとならん、我日本の大船たいせんとならん』という誓願せいがんとなって顕あらわれ、安立大法尼あんりゅうだいほうには『我閻われえん浮提ぶだいの太陽たいようとならん、我煩惱われぼんのうを能く断だんず、我妙法われみょうほうを以もって仏ぼつを成じやうぜん』という誓願せいがんとなって顕あらわれたと言えるのであります。またこのご決意けつゐこそ、日蓮聖人にちれんしやうにんをして上行菩薩じよきやうぼさつの再誕さいたん、安立大法尼あんりゅうだいほうにをして安立行菩薩あんりゅうぎやうぼさつの再誕さいたんとして、仰あおがしめる基もととなったとも言えるのであります。

このようなことは、「究竟の仏くきやうぼつと私共凡夫わたくしどもぼんぶは一体たい」、つまり、私共凡夫わたくしどもぼんぶも仏ぼつの分身ぶんしんという自覚かくがしっかりとなければ、言いえることではないでしょう。まして、実践じっせんしてゆくことなどできないと思おもいます。寿量品の真髓じゆりやうほんしんずいによって、私共は本仏ほんぼつの分身ぶんしんという信念しんねんをもち、その分身ぶんしんとしていかに行ぎやうじてゆくべきか、何をなすべきか、その答こたえが、究竟の本仏くきやうほんぼつの有ゆうする主しゆ・師し・親しんの三徳とくであろうと思おもいます。それが、三大誓願だいせいがんとなって世よに顕あらわされたのであります。

ふいのはの記

お正月は妙法蓮華経の妙

「五節供せつくの次第しだいを案あんずるに、妙法蓮華経みょうほうれんげきょうの五字ごじの次第しだいの祭まつりなり、正月しょうがつは妙みょうの一字いちじのまつり…」 『秋元殿御返事』

家族が墓参のため本家を訪れたのはお正月のことでした。私たちが夫婦にとっては結婚式以来、子どもを連れて行くのは初めてのことです。

「遠い所わざわざお墓参りに来てくださったとは、ご先祖さまもさぞ喜んでくださるだろうね」

本家の老夫婦はとても喜んで私たちを迎え入れてくれました。



「せっかく家族そろって来てくれたのだから珍しいものを見せてあげよう」

本家のご主人が蔵から出してきたのは、代々受け継がれてきた一本の掛け軸でした。そこには武士の家族が合掌しながら僧侶のご法話を聞いている様子が描かれていました。絵の中の家族は全員きちんとした正装で、主人とみられる人物の袴には我が家の家紋が入っています。

「片隅に正月飾りが描かれているよ。初参りなのかな」

「昔の人はお寺に行くのにもきちんと正装していたのね」

妻がしきりに感心する一方、子どもは無邪気なものです。

「ねえ、お正月になると、なぜ家族がそろってお寺にお参りするの？」

正月は昔からいろいろな行事が行われてきました。江戸時代には諸大名が行列を組みながら將軍にご挨拶に行った



り、宮中では天皇陛下が「四方拜」という儀式を行われるなど、一年中で最も意義深い祝日とされてきました。

日蓮聖人のご遺文には次のような記述があります。

「正月の一日は日の始め、月の始め、年の始め、春の始め。此をもてなす人は月の西より東を指して満つが如く、日の東より西へ渡りて明かなるが如く、徳もまさり人にも愛せられ候なり。」

抑々地獄と佛とは何れの所に候ぞと尋ね候えば、或は地の下と申す経文もあり、或は西方等と申す経も候。而れども委細に尋ね候えば、我等が五尺の身の内に候と見えて候。(中略) 譬えば蓮の種の中に、花と菓との見ゆるがごとし。佛と申す事も我等の心の内におわします。譬えば石の中に火あり、珠の中に財のあるが如し。我等凡夫は睫の近きと、虚空の遠きとは見候事なし。我等が心の内に佛はおわしましけるを知り候わざりけるぞ。(中略) 禍は口より出でて

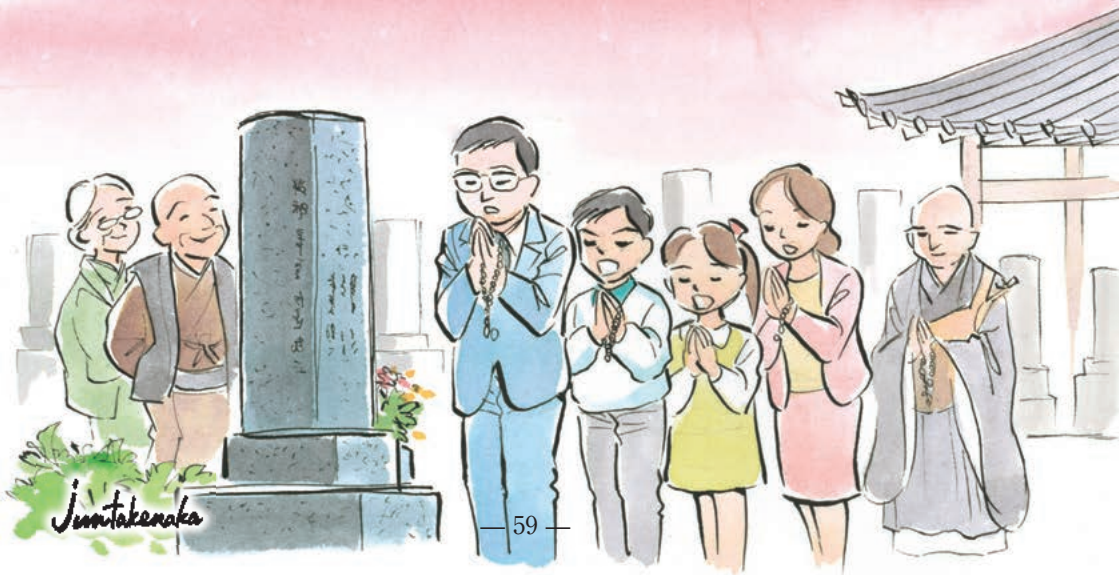


身を破る。さいわいは心より出でて我をかざる。今正月の
始めに法華経を供養しまいらせんと思食す御心は、木より
花の咲き、池より蓮のつぼみ、雪山の梅檀の開け、月の始
めて出るなるべし。(中略) 法華経を信ずる人は、さいわ
いを萬里の外より集むべし。(中略) 法華経を信ずる人は
梅檀にこうばしさの備えたるが如し』
『十字御書』

「これからお正月には家族みなでお寺に行って、手を
合わせて、今年も三徳を実行します。って仏さまにお誓い
して、家族が無事に過ごせるようにお祈りしようね」

「うん、いくつになってもみんなで行こうね」
「先祖代々ずっとそうしてきたんですものね」

その絵は家族みんなに、改めて固い信仰心を与えたよう
です。その証拠に、墓前で唱えるお題目の声がいつもより
大きく響いていました。



読者の声

“なんとかして救いたい！”という気持ちでいっぱいでした

新庄達吉（高槻支院）

2年前、同じ会社で働いていた7つ年下の後輩が悪性リンパ腫を患い、治療の結果、治癒したのですが程なく会社を辞めました。

昨年7月2日に会社の社長が亡くなられたので、彼にメールで訃報を知らせました。返事がなかったので気になっていましたが、約3週間後にやっと来た彼の返信メールの内容が衝撃的でした。

社長が亡くなったちようどその日、朝食をとっている時に突然気を失ったらしく、気がついたら病院だったそうです。2年前の悪性リンパ腫の癌が頭部に飛んで頭を内側から圧迫したのです。医師から、「1年以内に死ぬ確率が50%」と言われたそうです。彼のメールに対して私は次のように返事をしました。

「ショックでしょうが、あまり気にしないことです。それよりも気持ち向前向きにする方が大切です。かくいう私も、5年以内の生存率は良くて50%、悪くて25%でしたが、まだ生きています。まだまだあきらめてはいけませんよ」

2日後にまた彼からメールが来ました。

「抗がん剤が効くかどうか、まな板の上の鯉です。死ぬ前にこれだけはやっておきたいと思うことを列挙し始めました：」

とにかく今この人は救いを求めていると思います、次のように返事をしました。「まな板の上の鯉は誰しも同じです。私の場合は、抗がん剤治療を続けても腫瘍マーカーの数値が上がっていくので、抗がん剤は効かないのだと思います、写経を始めました。写経を始めてからもうすぐ5年たちますが、私にとっては写経が抗がん剤代わりです。良い結果が出ますように、私も微力ながら写経をして、功德を送らせてもらいます」

その時は、なんとかして救いたい、という気持ちでいっぱいでしたので、病氣平癒を祈願して彼の名前で写経をさせてもらいました。

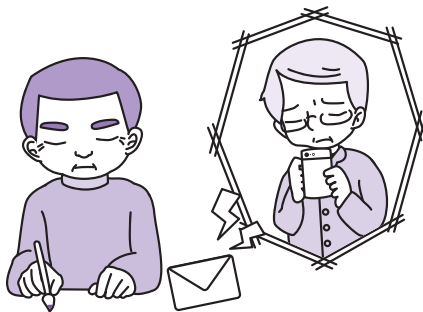
それから約4カ月後の12月、彼からうれしい知らせが届きました。抗がん剤治療を含めて7回の入院を繰り返した後、ついに寛解（病状が収まって穏やかな状態。検査の数値が正常な状態）と言われたそうです。治療中に私の励ましの言葉で救われたといううれしい言葉も添えられていました。

これを聞いて私は、自分の病氣の体験は無駄ではなかったこと、そして、法音寺を通じた祈りは必ず届けられると改めて思いました。

み仏の教の法は身のくすし

悟りてのまば いたつきもなし

《二祖・宗玄大徳御詠》





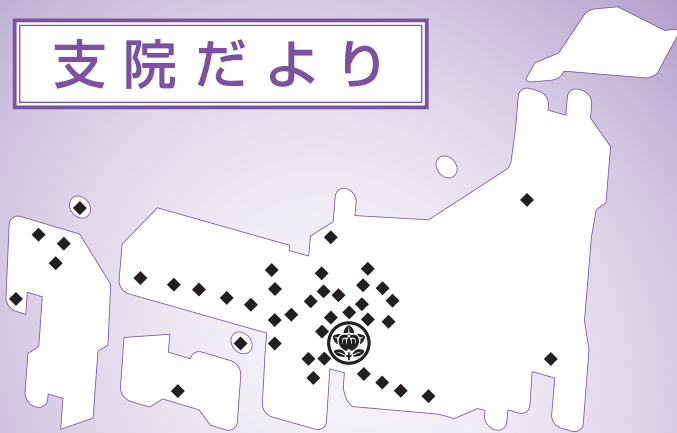
のりのりとも西に東に 転法輪



『汝等如來の滅後に於て、應當に一心に受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行すべし。所在の國土に、若しは受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行することあらん。若しは經卷所住の處、若しは園の中に於ても、若しは林の中に於ても、若しは樹の下に於ても、若しは僧房に於ても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在つても、若しは山谷・曠野にても、是の中に皆塔を起てて供養すべし。所以は何ん、當に知るべし、是の處は即ち是れ道場なり。諸佛此に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、諸佛此に於て法輪を轉じ、諸佛此に於て般涅槃したもう』

〔妙法蓮華經・如來神力品第二十一〕

支院だより



災害ボランティア

災害支援部会

岩手県・福島県

11月18日から21日の4日間、岩手県下閉伊郡岩泉町「岩泉町災害ボランティアセンター」と福島県南相馬市「南相馬市ボランティア活動センター」を介して支援活動を行いました。

今回の参加者は男性8名、女性4名の合計12名です。岩泉町は今年8月、台風10号の豪雨により甚大な被害を受けました。3カ月過ぎた現在でも片づいておらず、「冬までに室内の泥出しを終わらせたい」とボランティアを必要としています。

大まかな日程は次の通りです。

18日 移動日

19日 岩手県岩泉町

20日 福島県南相馬市

21日 移動日

18日は午前9時に集合・出発しまし

た。初日の宿泊地・盛岡には11時間後の20時に到着しました。

19日は午前7時に出発、9時に岩泉町災害ボランティアセンターに到着しました。

私達が今回行った活動は、川の氾濫により広大な畑に流れ込んだ流木やビニールハウスの鉄パイプ等を除去し、仕分けをして集積所に置いていく作業です。流木は大きささまざま、男性6人がかりでやっとな運べる大きさのものもありました。みんな気温5度という寒い中でも汗をかきながら頑張りました。皆さんの「できることを精一杯させていだけたい」という熱い気持ちがあひしひしと伝わってきました。

残念ながら、お昼頃に雨が降ってきてしまい、活動は午前中で切り上げることになりました。

活動終了後、ボランティアセンターからの紹介で龍泉洞温泉ホテルに汗を

流しに行きました。このホテルは公共の宿で、ボランティアには無料で開放され、災害によって家を失った方の受け入れもなされています。その後、南相馬に向けて出発し、午後8時頃に宿泊するホテルに到着しました。

20日午前8時、宿泊所を出発し、9時前に南相馬ボランティアセンターに到着しました。

今回は2班に分かれての活動でした。活動内容は「側溝の泥出し」と、「ボランティアセンターの移転に伴う「電気工事」でした。側溝の泥出し10名、電気工事2名に分かれました。

地震による地盤沈下やヘドロの堆積により、高さが変わってしまった側溝には、水が逆流したことで泥がたまっていました。泥出しはそれをすくい上げる力仕事です。側溝はコンクリートで作られた区間と、地面を掘って作られた区間がありました。コンクリート



災害支援活動

区間ではヘドロのかき出し、その他の区間は水の流れを良くするために側溝の幅を広げる作業を行いました。水の流れを最後まで作って行くと、その先には小さな水路があり、そこにつなげて作業が完了しました。

電気工事は、電気系統の接続を依頼されました。幸いにも、電気工事を本職にしている方が2名参加していたのでその作業も引き受けさせて頂くことができました。夕方、あたりが薄暗くなってきた頃、その作業も完了しました。電気をつけると、それまで暗かった部屋がパッと明るくなり、センターの方々はとても喜んでくださいました。

活動終了後、温泉で汗を流し、水戸の宿泊所まで移動して休みました。21日午前8時、宿泊所を出発し、道中休憩を取りながら、午後3時頃に本山に無事到着しました。

以下、参加者の感想文です。

○「初めの活動場所の岩泉に行く途中、川の岸辺が深くえぐり取られて木の根

っこがむき出しになっていたり、小さい橋が壊れていて、台風10号のすごさを感じました。どんなに恐ろしかったことだろうと話しながらバスに乗っていました。

災害ボランティアに参加させていただく度に、被災された方には申しわけないのですが、喜びが膨らみます。きつと訪問先の方々の喜ばれる顔と、参加される皆さんの心が伝わってくるからだと思っています。次に参加できる日を楽しみにしています」

○「これまでさまざまな災害に対して『大変やなあ』『お気の毒に：』と思うことしかできなかった私ですが、今回、縁あって参加させていただくことができました。

いろいろな技術をお持ちになり、それを生かしていきば行動される方々、どんな状況下にあっても細やかな心遣いをされる方、バスが発車するたびに明るく元気に『お願いします』と声を掛け、みんなの気持ちを一つにしてくださる方、多くの優しさと気配りにふ

れることができました。

普段何気なく、あたりまえのように生活していることがどれだけありがたく幸せなことか、この活動に参加させていただいたことで改めて感じました。穏やかな日常でいられることに感謝します」

○「何度か参加させていただいていますが、そのたびに、微力ではありますが

が私にも被災地のためにできることがあると感じます。そして、帰ると毎回『また行きたい』という気持ちになります。ただ、私は現役の社会人なので、会社の上司や同僚をはじめ周りの人の理解があるからこそ行かせてもらえるのだ、という状況を感じなければいけないと思いました。そして、せっかく参加する機会をいただいている

ので、身近な人に今の被災地の状況を伝えることも重要だと思い、たくさんの方に話していきたいです」
山首上人さまはじめ多くの方のお徳とご支援のお陰で無事、活動を行うことができました。ありがとうございます。

本山Ⅱ大黒祭・鬼子母尊神祭

3千名の人で賑わった佳き日

11月13日、秋季大黒・鬼子母尊神祭並びに七五三祈祷会が営まれました。

当日は午前8時から奉仕の方々によりバザーの準備が整えられました。

午前9時30分より随時法要が営まれ、大黒さま・鬼子母神さま合わせて1千体あまりがご香浴されました。また、子預け祈祷にも170名ほどが申し込まれました。

午前11時30分からは七五三祈祷も行

われ、本年は23名の元気なお子さん方が、山首上人さまより発育増進・身体健全のご祈祷を受けられました。

ご香浴を終えられた大黒さま・鬼子母神さまを抱えた皆さまが続々と本堂

から出て来られ、うどん・関東煮・みたらしだんご等を召し上がっていました。また、開山堂下では申カツや焼きそばなどの有料バザーもあり、長い列ができていました。

バザー券は当日券も含め約3千枚が販売され、賑わいました。

(文責 在記者)

本山Ⅱ本尊授与式・授戒会

一層のご精進を祈念申し上げます

12月4日、平成28年度本尊授与式・

授戒会が行われました。

午前11時より法要が営まれ、山首上人さまからの三徳護持のお問い掛けに、皆さま、大きな声でお誓いをされました。

法要終了後、この度本尊を授与された20軒の方に山首上人さまよりご本尊が手渡され、続いて21名の授戒を受けられた皆さまにも、一人ひとり法名と記念の念珠が手渡されました。

最後に山首上人さまが「法華経に『是人於仏道 決定無有疑』とあるよ

うに、退転することなく進まれることを祈念いたします」とご教化くださいました。

終了後、本尊授与・授戒それぞれの方が山首上人さまと記念撮影をされました。

場所を開山堂に移し、山首上人さまご発声の乾杯の後、和やかに会食をもにされました。

皆さまの、今後一層のご精進を祈念申し上げます。

安城支院 山首上人さまへ親修・大黒祭

導かれて最高の喜びを得られました

11月6日、明るく爽やかな秋晴れの日、大黒祭が行われました。

玄関には山首上人さまのご到着をお待ちになる方々のうれしい笑顔が並びます。

午前10時30分、満堂の参詣者が見守る中、子預け祈祷、続いて大黒尊天・鬼子母尊神の香浴、そして特別加持へと力強いご祈祷が続きます。午前中、

一連のご祈祷が2回行われて、バザーの昼食が始まりました。

今年 は島田上人のお計らいで、境内に外用の椅子を多く購入していただき、テーブルとともに配置されています。

お子さん連れの方やご高齢の方々にも、ゆつくり過ごしていただきたいとのご配慮です。ありがたいことに素敵なお席が整いました。

澄み切った秋の日差しを受けて、皆さん行楽地にもいるようなゆつたりとした雰囲気で大満足でした。

午後9時の部に入る前に、授戒会が行われ、山首上人さまより1名が法名をいただかれ、仏弟子のお誓いがなされました。

その方は以前、今は亡き信教師の方と同じ職場に勤務しておられたご縁で、お寺に来られるようになり、その後、ご主人を亡くされて、追善供養に、三徳の実行に、唱題行にと励まれ、法音寺信仰の心を強くされていきました。

今日、山首上人さまから授戒をいただかれ、全身から輝き出るうれしい心が、見守る人々に熱く伝わってきました。

一人の人に導かれ、多くの法友と交わり、親しみ、支え合って、最高の喜びを得られました。

御法推進目標・自説誓言 是非一人は、仏になれる人に導きましよう

御開山上人のお言葉が皆の心に沁み
ました。
(通信員 位田久子)

給仕の心を教えていただきました

一年おきに日蓮聖人の御足跡（ゆかりの地）を訪ねる旅をしています。今回は11月6日、7日の2日間で鎌倉方面に参り、宿屋光則の光則寺、安国論寺、鶴岡八幡宮、まな板岩の蓮慶寺、龍口寺、江の島観光と巡って行きました。

蓮慶寺では御開帳をしていただき、お寺のお上人より船守弥三郎ご夫妻の日蓮聖人への給仕のお話をうかがい、とても感動しました。

弥三郎ご夫妻は30日余り日蓮聖人を洞窟にかくまわれ、食料の乏しい時期に食事の他、身の回りの世話を一生懸命にされました。

お上人より「船守弥三郎ご夫妻は、日蓮聖人の御両親の生まれ変わりではなからうか。この弥三郎ご夫妻がなされたことは身延山の『給仕第一』の給仕であり、我々信者は菩薩行をするよ

う教えられていますが、『する』のではなく『させていただく』という思いでしなければなりません。このご夫妻のお陰で尊い法華経を聞くことができている。ありがとうございます。しっかりと実行していきたい」と、ありがたいお話を聞かせ

坂支院Ⅱ水子供養祭

今を喜び、感謝します

朝から青空が広がりとても気持ちの良い小春日和の11月6日。午前11時より、三宅上人導師のもと水子供養祭が行われました。

法要終了後、三宅上人は「この世に生まれることができなかつた魂を救うのがこの法要です。また、家庭でも怒らない・愚痴らない・求めないことが家庭円満となります」とお話しくださいました。

ていただきました。

蓮慶寺を出て日蓮聖人がかくまわれておられたという洞窟（御岩屋祖師堂）に参詣し、まな板岩の近くに立てられているお聖人像を望遠鏡で拝見し、御岩屋を後にしました。

全員無事に福山に到着、2日間とも天気が良く、とても暖かく、本当にありがたい旅日和の二日間でした。

（通信員 高橋満紀 代 日野和子）

続いて、谷田上人は長野県・昼神温泉にある『天空の楽園』にふれ「町の人々にはあたりまえに見えていた星空が、実は町の宝物でした。恵まれた環境にいたがゆえに、あたりまえ過ぎて感謝の心を忘れていたことがよくあります」とご教示くださいました。

私達は、大きな病気や怪我なども無く生活できていることをあたりまえのように思っています。本当はとも

ありがたく感謝しなければならぬことだったのです。

今を喜び感謝できるように、日々精進

していかなければならないと改めて思わせていただきました。

(通信員 笹原真由美)

東京支院Ⅱ七五三祈願会・胎教児証書授与式

素敵な家族会を楽しんだ一日

定刻の午前11時、本堂に太鼓の音が鳴り響きました。いつものお題目の唱和に代わって、この日は子ども達の声が続きます。

11月12日、七五三祈願会並びに胎教児証書授与式が行われ、子ども達の晴れ姿を、お万灯が頭上から祝っています。

法要後、証書やお土産を戴いた皆さんに、猪原上人から「とても素晴らしい笑顔です。その笑顔を毎日続けてください」と、ひとことご法話。その笑顔を記念写真にも残しました。

その後、ポケットに工夫を凝らしたエプロンを使う、エプロンシアターで「大きなカブ」を上演。「おおきな、おおきなカブをおじいさんが、おじい

さんをおばあさんが、おばあさんを子どもが、さらにはイヌが、ネコが、ネズミが、と一緒に引っぱっても

まだ抜けません。『この中で、だれか手伝ってくれるかな?』の声に、すぐに手が上がります。「ハロー」。大

豊川支院Ⅱ七五三祈願会

なぜこれほど心が休まるのでしょうか

見渡す限りの秋晴れ、その深く澄みきった空の青色に、紅葉した木々が拍手を送っています。11月12日午前10時30分、七五三祈願会が三宅上人導師のもと行われました。

本年申し込み50名、当日は17名の子ども達が参詣してくれました。

勢の子ども達が加わり、無事にカブは抜けたのでした。

そして、青年会のお兄さんお姉さんとゲームタイム。サッカーゴール、輪投げ、お菓子釣り、そして発心会のおじさんが用意してくれた、ミニSSLに興じました。

お天気にも恵まれ、主役のお子さん達だけでなく、親御さんやおじいちゃんおばあちゃん、大人達もまた、家族会を楽しまれた、素敵な一日となったようです。

(通信員 川合和美)

本堂に設けられた紅白の入場門を潜り抜けると、そこには中央から四方に結ばれた金銀鮮やかなモール。反射した光が子ども達のおでこや頬っぺたでキラキラ輝きました。

本堂のロビーでは抹茶のご接待。大人の真似をして茶碗を抱えても、やっ

ぱり子どもはジュースをねだり、お饅頭もパクリ。のびやかな秋のひとつこまです。

ご祈願開始。太鼓の合図とともに、キョロキョロしながらも席に着いて、お父さん、お母さんと一緒にお題目を唱えました。ご宝前には鶴亀の千歳袋と、御守が供えられています。七歳・五歳・三歳と、仏さまに一人ずつ名前が読み上げられ、三宅上人から「お友達を助け、仲良くね」と、御守と千歳袋が手渡されました。記念撮影では、すまし顔。晴れ着もさまざま、着物からスーツ・ドレス、スポーツウェアまで、どの衣装も微笑ましく、愛らしい表情で納まりました。

昼食は吉祥院で特製のサンドイッチと揚げパン。支院名物のコーヒーゼリーや杏仁豆腐。食後は青年会が準備してくれたゲームで大歓声。

子ども達の笑い声というものは、なぜこれほど心が休まるのでしょうか。諸天がこの天使達のいる場を創って、私達大人に人の心を和ませる方法を教

化くださっているような七五三祈願会

でした。

(通信員 鈴木康昭)

四日市支院Ⅱ山首上人さまご親修・大黒祭

気持ち前向きになりました

11月12日、大黒・鬼子母尊神祭が営まれました。当日は小春日和の言葉がびつたりの穏やかな日となりました。山首上人さまご親修とあつて信者さんも早くよりお寺に来られ、本堂は満席となりました。

法要が始まり、力強い読経と木剣が響き渡ります。一体ずつ香浴をしていただき、この一年で私達が被せた煩惱をお清めいただきました。張り詰めた空気の中、手を合わせ緊張感とともに、この上ないありがたさを感じました。

法要後、祖父江上人は「お数珠には煩惱と同じ108個の玉があります。その数珠玉を繰り返しながらお題目を唱え、煩惱を消滅し、良い心が使えるように修養しましょう」とご教化くださいました。

山首上人さまは「世の中は心一つの

置きどころ。心の持ち方で境遇が変わります」と前置きされ、物事を肯定的に捉えることにより、事態が好転したさまざまな出来事についてお話しくださいました。特に生前、日達上人がいつも「大丈夫、なんとかなる」と明るくおっしゃり、多くの困難を乗り越えられたお話には、お姿までもが目に浮かび、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。

ご法話終了後は特別加持を受け、心が軽くなりました。

帰りにはテント内に用意された豚汁をおいしくいただき、体も心も温まりました。

ご参詣の皆さんは、清浄な状態に戻られた大黒さまと鬼子母神さまを大切に抱き、お礼とご供養を戴いて帰途に就かれました。

後片づけの中で、山首上人さまの「心の持ちようが大切です。ありがたいと思えばありがたいこと、この上ないのです」というお言葉を心の中で繰

大阪支院Ⅱ七五三祈願会

見守る大人もうれしい笑顔になります

小春日和に恵まれた11月12日午後2時より、七五三祈願会が行われました。袴姿も凛々しい男の子、黒いスーツに白いネクタイでキリツときめて得意顔の女の子、みんな元気な笑顔です。

「さあ、集まって」の声に、走り回っていた本日の主役達14名も、お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんのもとに駆け寄ります。

かわいい手を合わせ、お題目を唱える中、古山上人導師により法要が始まり、諸天善神・三先師・日達上人にこれまで健康やかな成長を感謝し、さらなる成長を祈願していただきました。法要後、お上人は「おりこうさんでしたね」と子ども達に声を掛けられた

り返しながら、気持ち明るく前向きになっていくのを感じました。

(通信員 服部薫 代 加藤成子)

後、お父さん、お母さん達には「子ども達は善い魂を持っています。他の子と比べるのではなく、それぞれの良い所を伸ばしながら育てていきましょう」とお話しくださいました。一人ずつ名前が呼ばれると、子どもたちは緊張し

上野支院Ⅱ本山大黒祭団参

心新たに精進をお誓いしました

11月13日、本山の大黒祭への団参が行われました。

支院駐車場を午前8時30分の出発。途中、大山田パーキングエリアにてトイレ休憩を取り、午前10時30分、無事本山駐車場に到着しました。

ながらお上人の前へ行き、御守とお土産のお菓子を戴きます。「ありがたいございます」と大きい声で挨拶ができると、見守る大人も一緒にうれしい笑顔になります。

最後はお上人を中心に記念撮影です。「オーイ、オーイ」と手を振っての呼び掛けで「ハイ、チーズ」。カメラマンは首を傾けながらも2回目でも何とかOKです。

その後は自由に金屏風の前で写真を撮ったり、お茶とお菓子をいただいたりと、元気な声が飛び交っていました。

(通信員 坂井信子)

本堂ではすでに香浴が始まっており、私達の順番は第2座の午前11時からというところで、余裕をもって受付をし、団参に参加できなかった方々からお預かりした分も含めて滞りなく香浴していただくことができました。

その後、法泉院にてバザーの昼食をいただきました。毎年この大黒・鬼子母尊神祭では、特に法泉院で手厚いご接待をいただき、心より感謝申し上げます。

お札に同封されている「大黒さまの

お話」「子育て鬼子母尊神のこと」のパンフレットを読ませていただき、心新たに精進をお誓いしました。「今日一日頑張ろう」の心で乗り切っていききたいと思います。

(通信員 廣出寛二)

子ども達の笑顔がみんなに広がっていききました

11月13日午前10時30分より、第1回七五三祈願会が開催されました。8家族15名の子どもさんの申し込みがありました。

まず宮崎上人導師のもと子ども達の健やかな成長祈願の法要が行われました。法要後、宮崎上人は「七五三は江戸時代に始まりました」と七五三の由来をお話しくださしました。続いて記念品贈呈です。一人ひとり名前が呼ばれると、子ども達は神妙な顔つきで宮崎上人の前まで歩いていきましたが、御守と記念品を手渡されると、にっこりと笑顔で自分の席に戻っていきまし

た。

記念撮影後、ロビーに降りると甘いおいしそうな香りが広がっています。

壮年会の方が子ども達のために一生懸命、キャラメル味のポップコーンを作っておられました。そのポップコーンを1カップもらって、DVD鑑賞の始まりです。DVDは福岡支院にお借りしたものを上映しました。題名は『ふしぎなことば』。子ども達はもちろん、ご家族も夢中で引き込まれていました。昼食は女性会の方が愛情を込めて作ってくださいました。お皿には、クマの顔のホットケーキ・おむすび・玉子

焼き・唐揚げ・果物など、子ども達の大好物が可愛く盛りつけられています。

昼食の後は本堂にてビンゴゲームです。壮年会の方の進行のもと、景品も子ども用、大人用と分けて準備してあります。番号が発表されるごとに歓声が上がります。子ども達も笑顔で、それを見ていたご家族の方も笑顔になり、そのご家族を見ていたお手伝いの方も笑顔になりました。子ども達の笑顔がみんなに広がっていきました。

全員に景品が渡ったところでゲーム終了となり、宮崎上人のご挨拶で第1回七五三祈願会が終了しました。

子ども達の笑顔でみんなが笑顔になった一日でした。三先師・日達上人・山首上人さまのご加護により、無事七五三を終えられたことを感謝いたします。

(通信員 高橋満紀 代 徳永秀樹)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

しっかりと前を向く頼もしい子

11月13日、七五三祈願会が、三原・森野上人をお迎えして執り行われました。

数年前まではお母さんと一緒だった子どもさんの、一人で座布団に座り、しっかりと前を向いている姿が頼もしく思われます。法要後、最年少の子どもの名前が呼ばれると、コクンと頷き、お土産を受け取り、「ありがとうございます」とハッキリ。その様子を見守った皆さんも、笑顔で拍手をしていました。

手嶋上人より「皆さん、しっかりと三徳を実行してください」とお話しいただきました。続いて森野上人は「人がマイナス思考になるのは一日平均70万回。プラスに転換させるには、あなたが「ありがたい」と思うこと、言うことが一番です」とご教化くださいました。

つている」というのはショックでした。

一宮支院Ⅱ妙操法尼・日正上人祥月法要

11月15日、篤行院妙操法尼（伊藤妙操法尼）と持徳院日正上人（伊藤宗善上人）の御祥月命日法要が営まれました。

朝、小雨が降っていましたが、午前9時頃には日が差し、穏やかになった天気には感謝しかありません。ご奉仕の方々のお顔もさわやかで活気にあふれています。本堂の仏花も生き生きと美しくなり、ご遺影も、お二人揃ってご宝前に並んで微笑んでおられるかのようにです。

お集まりの方々に、まずお抹茶で寛いでいただきました。昼食時には春巻が供され、皆さん「おいしい、おいしい」と喜ばれていました。

今日一日の実行を誓い合いました

お題目を唱え、余計なことを思い浮かべず、一回でも多く「ありがたい」と思えるように精進していきたいと思えます。

（通信員 海野和子）

午後1時30分より、大垣・香村上人導師のもと法要が執り行われました。散華の舞い散る中、唱題の声も響き、お焼香の香りに心も清められ、両師のご守護とご遺徳に感謝しました。

法要後、島田知教上人と香村上人よりご法話をいただき、心の糧になりました。

「良い話を聞いたら、今日一日今日一日とできることから実行しましょう」と誓い合い、解散しました。

（通信員 今枝文子）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

感謝の心で励みます

境内のドウダンツツジの葉が真っ赤に染まり、秋の深まりを感じる11月15日。午後7時より、大黒・鬼子母尊神祭が厳修されました。

1年間、各家で私達を見守ってくださった大黒さま・鬼子母神さまもご宝前で香浴の時をお待ちです。

法要が始まり手を合わせますと、大黒さまとともに身も心も清浄にしてくださいました。

法要後、後藤上人は「人は自分なりにできることで精進することで、法の悦びを得て天寿を全うできるのです」とお話しくださいました。

山首上人さまより「争わない生き方が幸せを呼ぶ。穏やかに生きる」とお話しいただき、心に刻みました。

その後、授戒会が行われました。常日頃、境内の草木を手入れしてくださるご夫婦が、緊張されながらも喜び

の様子で受けられました。

続いて特別加持をしていただきました。お加持を受けた70代の男性は、「また明日から健康を過信せず、体を労わりつつ、感謝の心で仕事にご奉仕

京都支院 山首上人さま 親修・大黒祭

参詣者の心を清められました

11月19日、待ちに待った山首上人さまのご親修とあって本堂は超満員となりました。土曜日ということもあり、ご家族でお参りに来られた方々で賑わいました。

本堂内陣には手作りの豆餅が山のようには供えられ、ご祈祷を受けられる小ささまさまの大黒さま・鬼子母神さまが並んでおられます。

午後2時となり大黒・鬼子母尊神祭が厳修されました。リズムよく流れる

に励みます」と喜んでおられました。

大黒さま・鬼子母神さまを胸に抱いて境内へ。昨夜見られなかったスーパームーンは、今夜は空高く、くつきりきれいに輝く。お月さまでした。

私どもも家庭や職場で周りを照らす行いをしたいものです。晴れ晴れとした気持ちで帰路に就きました。

(通信員 加藤寧子)

読経の中、響き渡る木剣の音、そして順々に大黒さま・鬼子母神さまが香浴を受けられました。

法要後、特別加持をしていただき、参詣者も大黒さま・鬼子母神さまと同じように心身ともに清浄にしてくださいました。

山首上人さまはご法話にて、「プラス思考と堪忍の大切さ」をお話しください、「何事も相手が都合良くいくように祈るとその想いが自分に返ってくる

る」とご教示くださいました。

その後、境内できつねうどんとスイートポテトのご接待を受け、皆さんおいしそうに召し上がり、楽しそうに談笑されていました。手作り赤飯とご供養を手にして、香浴していただいた大黒さま・鬼子母神さま、併せてお札と豆餅を戴かれ、帰路に就かれました。

ちなみに、今回の豆餅は、法愉会を

東京支院Ⅱ福聚のつどい

英気があふれていました

今年、「福聚のつどい」は11回目を迎えました。行き先は鎌倉。11月20日、お上人をはじめ総勢23名が現地集合しました。

江ノ電へ乗り継ぎ、長谷駅へ。朝方、濃霧が押し寄せ心配しましたが、気づいてみればいつものように法音寺晴れ。終日穏やかに徒歩での散策を楽しむことができました。

最初に訪れた光則寺は宿谷光則が創建したお寺です。日蓮聖人が立正安国

中心に遊学会と青年会にもお手伝いいただき、4台の餅つき機をフル稼働して手作りしたものでした。

天気予報は雨だったにもかかわらず、最後まで雨が降ることなく無事に行事を終えられました。この不可思議は、ひとえに三先師・日達上人のご守護と山首上人さまのお徳のお陰だと感謝しております。(通信員 牧野伸江)

論を時の執権北条時頼に奉進したのは光則の父、宿谷行時を通してのことでした。後に宿谷邸裏の土籠に幽閉された日朗上人に宛てて書かれたのが土籠御書。「日蓮は明日佐渡の国へまかるなり。今夜の寒さにつけても、籠のうちの有様思ひやられて痛わしくこそ候へ云々」。お参りをし、ご住職のお話を伺い、御開帳のお祖師さまを問近に拝顔したのち、花マップの路を通り過ぎた奥に土籠がありました。籠のう

ちのありさまこそいたはしく候へ」と書かれた日蓮聖人の心眼を実感する光景でした。

お昼。海を見ながら、ハンバーグ・コロッケもすべて野菜製という昼食をいただきます。

野菜料理で気分も一新した午後は、辻説法跡に寄り道をしながら妙本寺へ。緑の樹々にはさまれて細く感じられる階段をいくつも昇ると、ご案内くださる尼僧さんがいらつしゃいました。二天門前では貫主さまを囲んで記念写真。気さくな貫主さまは、お参りの後のお話を辻説法跡や開基・比企能本が法華堂を建てるに至った経緯、そしてお上人方が唱えられた七仏通戒偈をわかりやすく解説してくださいました。その貫主さまはかつて御開山上人の『仏説観普賢菩薩行法経略義』を読まれたそうので、「わかりやすくありがたかった」とおっしゃっていました。

最後となる3つ目のお寺は本覚寺です。身延へ籠られる直前の日蓮聖人が40日ほど過ごされた夷堂の跡地に後年、

足利幕府から許可され創建されたお寺で、身延から日蓮聖人のご遺骨がご分骨されたため、東身延とも呼ばれています。ご住職はお参りの後「鎌倉は日蓮聖人が説法され、迫害を受け、お題目を唱えられた場所。どこも大聖人の

気が満ちている所です。それをいっばい吸い込んで英気を養っていってください」とお話しくださいました。帰途に就く皆さんのお顔には、英気があふれていました。

(通信員 川合和美)

大垣支院Ⅱ小原奉仕

草とともに罪障を刈り取りました

11月20日、小原福祉ビレッジの清掃奉仕に参加させていただきました。ここ数日めっきり寒くなりましたが、今日は良い気候に恵まれ、清掃奉仕にはもってこいの日となりました。

午前8時、支院に集合し、交通安全祈願を出発。道中、四季桜と紅葉を楽しみ、談笑が絶えることのない中、小原福祉ビレッジに到着しました。

担当の高原さんをはじめ皆さんにお迎えいただき、早速作業を始めました。お借りした草刈機・鎌・熊手などを各々が伐採されておりきれいに整って

いますが、広大な土地だけに作業を始めると次々とやる事が出てきます。

途中、休憩時間に飲み物とお菓子をごちそうになり、もうひとがんばり。

皆さん熱心に作業を続け、気づけば正午。後片づけをして、気候も良いためそのまま外で昼食のお弁当をいただきました。お弁当を食べている皆さんには、アレチヌスビトハギ(通称ひつつき虫)がびっしりとくっついており、

皆さんの頑張りのお蔭となっていました。休憩中に施設の方より、お土産と美しいお花まで戴きました。高原さんより「いろいろな方が清掃奉仕に来て



大垣支院の小原奉仕

くださるお陰で、きれいに維持できて大変助かっています。ありがとうございます。お見送りを受けて帰路へ就きました。帰りもきれいな四季桜と紅葉を楽し

東京支院Ⅱ猪原妙政法尼一周忌

〳先生だつたら…〳と考えます

「この1年。つい昨日のような気がするのに、もう10年もたったような気がします」

11月23日、多目的ホールでは、ご供養のお弁当をいただきながら、そんな会話が交わされていました。今日は、淳篤院妙政法尼と名前を変えられた、猪原法尼の一周忌。

定刻午後1時30分。お題目が始まります。お祖師さまの下方に置かれた先生のご遺影を前にして、御導師の鈴木修徳上人、お上人方がご宝前に上がられ、切散華、道場偈、方便品と式は進みます。

回し焼香が始まり、手から手へ渡さ

みながら談笑絶えず、今日一日、無事に ご奉仕させていただいたことを感謝いたしました。草とともに罪障も刈り取れたのではないかと思います。

(通信員 姫田拓男)

れていくとともに、堂内のあちらこちらから煙が昇っていました。

猪原上人はご挨拶で、「この一年、

安城支院Ⅱ位牌堂法要

懐かしいお姿が浮かび上がってきました

美しく染まった紅葉も日一日と姿を変えています。11月23日は風もなく穏やかな小春日、位牌堂法要が厳修されました。

ご宝前の祭壇白布の上には位牌堂からお出ましの110余基の各家ご先祖のお位牌がお祀りされています。

午前10時30分、島田上人導師のもと

先生がおられたらな、と思うことが多々あったかと思いますが、先生だつたらどうされるか、と考えていけば進む道も見えてくると思います」とご教化くださいました。

修徳上人も、たくさんのおもしろい昔話を例に「慈悲とは、やさしくいえば温かい心ということです。妙政法尼はそういう温かい心を持っておられました。残された我々が功德を送ることが大切です」とご法話くださいました。

(通信員 川合和美)

信教師出仕で位牌堂安置諸霊位追善法要が営まれました。

お上人は役員、信教師の物故功労者をご回向され、併せて納牌各家一軒一軒のお名前を読み上げて丁寧にご回向されました。ご家族もご宝前に上がられて、お位牌に対面しお焼香をされました。

最後に今年の繰入霊位の方々のお名前が読み上げられて、重ねてご回向がなされました。懐かしいお姿が浮かび上がってきた一年の変化を感じました。

法要後、お上人は「根のない植物は枯れてしまいます。一層追善供養、三徳の実行に励まれて、根であるご先祖さまに、水や栄養を差し上げ、美しい花を咲かせてください」とお話しください。

岐阜支院Ⅱ七五三折願会

心温まる雰囲気でした

11月23日、七五三折願会と併せて秋季バザーが開催されました。

午前11時からの七五三折願会には1歳から13歳まで50余名の申し込みがあり、着物やスーツ、ドレス姿のすまじ顔の男の子や女の子が元気に本堂に集まりました。

その後、ご祈願が行われ、小さな手を合わせ、発育・成長・学徳の願いをしました。

お勤めの後、順徳上人から「人が喜

さいました。

その後、研修棟で昼食のご接待をいただきました。

三先師・日達上人・山首上人さまのお徳をいただいて、ご参詣の皆さんは今日のお天気のように、温もりに満ちた幸せなお顔で帰路に就かれました。

(通信員 位田久子)

ぶことをしましょう。お父さん、お母さんに『ありがとう』を言いましょ。そうしていくと、良いことがあります』と教えていただきました。また、育成部長は、『一日一言』の11月23日の「知足」と、お祝いでいただいた『十王の話』のお話を読んでもいただきました。

お話の後、名前を呼ばれた子は大きな声でお返事をして、御守と記念品、お菓子の詰まった千歳飴の袋、バザーのチケットを戴きました。恥ずかしが

り屋さんも大きな声でお返事ができ、また一つ大きくなった姿が印象的でした。そして記念撮影をしました。

七五三が終わるとバザーです。今回のメニューは、爽やかなレモンラーメン・プルブルの目玉焼きつき焼きそば・甘くておいしいおいなりさん・ポテトフライとから揚げセット・肉汁たっぷりのフランクフルト・寒いこの季節にぴったりの湯豆腐・見た目も鮮やかなフルーツヨーグルト・人気のポテトサラダ・各種ドリンクと、盛りだくさんです。

支院の方ももちろん他支院の方にも多数ご奉仕いただき、朝から賑やかに楽しく準備していただいた自慢の一品ばかりです。境内は暖かな日差しに負けないくらい、心温まる雰囲気に包まれました。

食事を済ませた子ども達は子ども広場に集まってきました。子ども広場には、好きなジュースやお菓子を5つ選べるコーナーと、射的コーナーがありました。射的をする姿は真剣そのもの

です。待っている子も、ドキドキしながら楽しい時間を過ごしました。小学校高学年、中学生のお兄さん、お姉さんが、進んでお手伝いに参加してくれて、小さな子も楽しく過ごせました。

片づけも、皆さんテキパキと協力して、昼からの講日に参加しました。今回は、若い方が多く参加され、いつも以上にパワーにあふれていました。(通信員 三輪一女 代 河野由美)

郡上八幡支院Ⅱ開基堂輪番奉仕・関支院参詣

喜びを分かち合いました

11月23日午前8時30分、開基堂に向けて支院を出発。小春日和の中、街中を流れる吉田川の辺りには、薄紫の皇帝ダリアが大輪の花を咲かせて見守ってくれています。

1時間半ほどで開基堂に到着。高浪上人をはじめ、信者さんの笑顔のお出迎えに、1年振りの再会の喜びが湧いてきます。

早速、納経堂にお参りをして本堂へ。参詣者一同、改めて喜びを噛み締めました。法要が始まり、静寂と荘厳さの中で参詣者も少し緊張気味です。法要の最後には全員で御開山上人に三徳の実行と広宣流布のお誓いをし、心を込

めてお焼香しました。

法要の後は毎年行っている納経を、今年は初めて本堂内でさせていただき、本堂にありがたく思いました。

本堂前で記念写真を撮った後は研修棟に移り、高浪上人、お庫裡さま、ご奉仕の方とともに昼食をいただき、楽しい語らいのひとときを過ごしました。

今回の団参は、開基堂参詣と合わせて関支院講日参詣を予定しましたので、正午過ぎには一同、開基堂を後に関支院へ向かいました。午後1時頃に到着し、講日に参詣しました。

関支院では講日法要前に七五三祈願会が行われていました。背筋をピン

と伸ばし、小さな手を合わせる様は可愛くも尊い姿でした。

法要後、吉橋顕良上人は「お経を読むことも大切ですが、内容を知ること、よりありがたみも増すと思います」とお話しくださいました。関支院の講日は、ともに御法を抛り所として支えるお寺なればこそ、親しみやすく家族的な温かさを感じました。

開基堂、関支院参詣とお寺巡りの一日となりましたが、とても楽しく実りある団参となりました。今後も機会を得て、たくさんの人とともに喜びを分かち合いたいと思いつながりながら帰路に就きました。(通信員 八代哲雄)



自分の心に照らし合わせました

11月23日、大黒・鬼子母神祭、並びに子預け祈祷が厳修されました。例年にも増して大勢の方の参詣があり、受付の周りは近隣支院の方々との束の間の交流場になっています。

午後2時に法要が始まり、まず授戒会が執り行われました。山首上人さまよりご法名をいただいた9名の方は、どなたのお顔も引き締まっていました。

続いて、鋭い木剣の音が響き渡り、お題目の流れる中、大黒さま・鬼子母神さまが一体ずつ、丁寧に香浴されました。

法要後、山首上人さまより『堪忍』

についてのご法話をいただきました。以前は短気だった村上先生が、後々々でも魂にしみ込むほどに堪忍を説かれ、ご法のために堪え忍ばれたという尊いお話とともに、「人生は勝ち負けではありません。人の気持ちを思いやりな

がら、徳を積み重ねることによって物は良い方向に向かっていきます」と大切な堪忍の心をご教化くださいました。皆さんそれぞれ自分の心に照らし合わされたのではないのでしょうか。

静岡支院Ⅱ子ども会・青年会レクリエーション

おみやげも、みやげ話もいっぱいになりました

11月26日、子ども会・青年会レクリエーションが行われました。

小春日和に恵まれ、子ども達もここに顔で支院に集まって来ました。お上人よりお菓子を戴き、バスに乗って浜名湖の北にある奥山方広寺に向かいました。

方広寺は約600年前に建てられた静岡県内最古の木造建築物です。本堂を参拝させていただきました。境内には五百羅漢が祀られており、さまざま

ご参詣の皆さんは、子預け祈祷、特別加持を受けられ、とても穏やかなお顔で大黒さま・鬼子母神さまを手に境内へ降りていかれました。

境内ではご奉仕の方の温かいおもてなしのうどんをいただき、体もホッカリとして帰路に就かれました。

(通信員 坂井信子)

な表情の羅漢さんがいっぱいです。子ども達も羅漢さんと並び、手を合わせ写真に納まっていました。

そして楽しみにしていたレストランへ移動。低学年の子はお子さまランチに大喜び。高学年の子は、とんかつ定食をペロりと平らげ満腹、大人はヘルシーメニューをいただきました。

次の目的地は、航空自衛隊エアパーク。展示格納庫には航空機がずらりと並び圧巻です。子ども達は操縦席に座

り、操縦桿を握って敬礼のポーズ。まるでパイロット気分。笑顔が弾んでいます。

次は、うなぎパイファクトリーです。浜松の有名なお菓子、うなぎパイの製造工程をガラス越しに見て歩きました。甘い香りが漂う中、子ども達は試食品

大垣支院Ⅱお楽しみ子ども会

子ども達の笑顔に心が温まりました

11月26日、恒例の冬のお楽しみ子ども会が行われました。

午前10時30分より、奉仕者・青年会の皆さんが集まって準備を行い、午前11時に子ども達が集合しました。

早めに集まった子ども達は外でめだかや金魚を見たり、室内ではしゃいだりと、既にパワー全開です。

宝前にてお参りをして、今日は早速昼食の準備です。本日のメニューは「まんまるオムライス」と「小さなオリジナルピザ」です。「まんまるオムライス」はたこ焼き機を使って作るボ

を口に「おいしい」とにつこりです。おみやげもみやげ話も、いっぱいになりました。

一日中暖かな日差しをいただき、子ども達の喜ぶ姿に会い、山首上人さまのお徳のお陰と感謝しました。

(通信員 高橋清二代 新村いよ子)

ール型のオムライス。小さなオリジナルピザは、餃子の皮の上に好きな具材を載せてホットプレートで焼く、みんなで作る簡単レシピです。子ども達は喜んで好きな具材を載せて、自分だけのオリジナルピザを楽しみました。食事が終わると自由時間です。ボールや遊具などを使って、支院内全体を遊び場にはしゃぎまわります。

午後2時からはバルーンアートです。市に申請して、作り方を教えてください。子ども達は作り方を真剣に聞き、悪戦苦闘しな

がらもいろいろな動物や花を作っていました。尻尾の長い犬になったり、首がすごく長いキリンになったりと、一人ひとり個性が出ています。みんなで剣を作ると、そこかしこでチャンバラごっこ。本来の時間を1時間超過して充分楽しみ、教えていただいたお兄さん方にみんなでお礼を言いました。

まだまだ遊び足りない様子でしたが、おやつをいただいてお開きとなり「また正月にね」と挨拶して帰っていきま

した。いつもながら子ども達の元気な姿、笑顔に、「無財の七施」の「和顔施」を体感させていただき、心温まる思いがしました。(通信員 姫田拓男)



地域の皆さんとの楽しい交流

11月27日、支院と近隣の2町会とを結ぶ交流の輪『みつわ会』主催による第24回カラオケ大会が開催されました。あいにくの雨となりましたが、皆さん早くから元気に足を運ばれました。

壮年会有志の皆さんにより、手作りの舞台上にライトや飾りつけ等もセッティングされた研修室へご案内。受付で飲み物、おつまみと福引きの番号札を受け取り席に着かれた皆さんは、ステージ脇に飾られた景品の数々に興味津々の様子です。

午後1時30分、みつわ会会長の司会のもと、大会のスタートです。我こそは、と発表を申し込まれた30組の皆さんは、ドレスやブレザー姿も板についています。気持ちよさそうに朗々と歌い上げ、日頃の練習の成果を存分に発揮されました。ケアハウス大阪安立からも1名、皆さんの応援を受けて美し

い声を聞かせてくださいました。そして日本福祉大学大阪サテライトの亀山さんは「世界に一つだけの花」を熱唱。会場は盛り上がりました。今年は2組

神戸支院Ⅱ支院御法推進大会

自分の喜びとして返ってきます

秋雨が降る11月27日、平成28年支院御法推進大会が盛大に行われました。

午前11時より田中上人導師のもと、本堂において勤行が始まりました。続いてお上人より「御法を実行すると同時に、御法を広めていきましよう。人を喜ばせ、人に尽くすことはすべて自分の喜びとして返ってきます」と、ご法話をいただきました。

その後、本山御法推進全国大会で上映されたDVDを鑑賞した後、山内運営委員長の推進目標ご講話、全員での

の方々が舞踊を披露され、それぞれに残る演目でした。

最後は98名の方々に福引大会を楽しんでいただき、午後5時、閉会となりました。

地域の皆さんとの交流も一層深められた一日となりました。

(通信員 坂井信子)

推進目標の唱和に続き、青年会・壮年会・信教師会から各1名の体験談発表がありました。

青年会の女性は「講日の受付のお手伝いをさせていただくようになり、本山のご奉仕にも参加できることに喜びを感じていると、転職した新しい職場にスムーズに馴染むことができました。諸天善神のご守護に感謝しています」と話されました。

壮年会の男性は交通事故について、ご自身の体験を交えて「交通安全の御

守を身につけているだけでなく、お題目と三徳の実行、相手を思いやる心の実践によって多くの交通事故は防げると思います」と話されました。

最後に信教師の女性は息子さんのことを語られました。今までお寺に関する話があまりできなかった息子さんが、足を骨折したことで、神通掛けやお題目の唱和を素直に受け入れてくれたそうです。そのうれしさと、三先師・日達上人・山首上人さまのご加護をいただいて、少しずつでも御法に近づいていることへの感謝を話されました。

3名の方の有意義な体験発表に、参加者一同感動しました。

休憩の後、場所を本堂からロビーに移し、交歓会が開かれました。

各テーブルには、寿司やか揚げ、皆さんの差し入れ、果物に飲み物がたくさん並べられました。楽しく会話が弾みました。

お腹がいっぱいになった頃、恒例のビンゴゲームが始まりました。読み上げられる数字に皆さんは一喜一憂。今

年は、陶芸品や手芸品など、紙袋いっぱい景品が全員に当たり、大喜びでした。また、全員によるジャンケンゲームで大変盛り上がりしました。皆さん「楽しい一日をありがとうございました、感謝の言葉を残して帰途に就かれ

三原支院Ⅱ支院御法推進大会

新本堂竣工・入仏式に向けて

11月27日、講日に併せて支院御法推進大会が行われました。

午前10時から、除災祈願お題目会が行われ、11時からは奉仕作業がありました。奉仕作業では、顕修堂内のものはほとんど片づけられ、窓・本棚・押し入れ等々細かい所まで、「長い間お世話になりありがとうございます」という気持ちで皆さん、掃除機・雑巾を手に一生懸命お掃除をされました。そして、お昼にはカレーライス・大根サラダをいただきました。

午後1時30分より講日が始まり、法要後、森野上人は「良い人生を歩むた

ました。

来年は、より多くの方に参加していただけるように声掛けすることと、改めて三徳の実行をお誓いしました。

(通信員 石田成子)

めに一步を踏み出し、みんなでレベルアップしましょう。このように努力し続けたら、こうなったということを経験してほしいものです」とお話しくださいました。

続いて御法推進大会のビデオを鑑賞。運営委員長より各々の事業計画についての説明とともに「いよいよ12月18日には、山首上人さまをお迎えして新本堂入仏式が執り行われます。これからも引き続きご協力お願いします」とご挨拶をいただきました。

皆さん12月18日の入仏式をととても楽しみにされています。ますますの三徳

の実行をお誓いさせていただきました。

(通信員 平田真弓)

佐屋支院Ⅱ開基堂輪番奉仕

不思議な世界に入り込んだような境地

晩秋の11月28日、開基堂輪番奉仕と親陸会を兼ねた名古屋城本丸御殿の見学会が行われ、27名の方がご参加されました。

午前9時、支院に集合。小宝前で道中安全の祈願の後、9時30分にマイクロバスで出発。車中では信者さんの差し入れのお菓子が配られ、お隣同士会話が弾みます。和気あいあいの雰囲気の中、40分ほどで開基堂に到着しました。

山門前で高浪上人、お庫裡さま、役員の方々がにこやかに出迎えてくださいました。山門下には、丹精込めて育てられた赤・白・黄の大輪の菊の鉢植えが並んでいます。境内は掃除が行き届いており、清々しい気持ちになりました。

まず、納経堂にお参りしました。そ

の後、本堂にて村上善立上人導師のもと勤行が行われ、お焼香させていただきました。御開山上人に三徳のみ教えを実行することを誓い申し上げました。

法要後、高浪上人のご挨拶、開基堂の説明と続き、初めてご参詣された方には記念品が手渡されました。その後、ご宝前の天井画を拝見させていただきました。光り輝く天蓋の荘厳さと、天井の愛らしい花の絵を目のあたりにして、不思議な世界に入り込んだよう、ただうっとりとするばかりでした。

その後、研修棟で茶菓のおもてなしを受け、お土産まで戴いて、高浪上人、お庫裡さま、ご奉仕の方々のお見送りに感謝しながら開基堂を後にしました。

昼食時間の関係で、フラワーパーク江南に寄ることになりました。展示コーナーには身近にあるもので作ったお

もちゃ等が飾ってあります。絵手紙を書いている教室もありました。

その後、昼食場所の名古屋市北区にある天ぶらの老舗「光村」へ向かいました。車中ではお庫裡さまとのジャンケンゲーム。勝者8名が景品が戴けるとあって、みんな一喜一憂しながら楽しみました。

30分ほどで到着し、名物のかき揚げ天井をいただきました。ご飯の上にくさんの海老が入ったかき揚げが載り、皆さん堪能された様子でした。

最後の行き先は名古屋城です。紅葉に映える城内を巡り、今年再建された本丸御殿を見学しました。太い立派な総檜で造られた真新しい御殿、華麗な花鳥画が描かれた表書院の襖絵等、息を呑むような豪華さです。その後、銘々で名古屋城内を見学した後、3時50分、正門前に集合。名古屋近辺の方とはここでお別れをして、残りの方はバスに乗車。支院に帰り、皆さん幸福感に包まれて解散しました。

(通信員 岩間淑子)

精進を改めてお誓いします

12月1日、顕修院日達上人を偲ぶ会が催されました。

午後8時、御報恩謝徳の法要が始まり、参詣の皆さんは神力品の読経が流れる中、一人ひとり丁寧にお焼香をされました。ご宝前には日達上人の大塔婆を掲示、御遺影を飾らせていただきました。

法要後、橋本上人は日達上人の『一日一言』12月1日（道諦Ⅱ今日一日ならでできるかもしれない）より引用されて「現状を満足することなく、よく不満を口にしてしまいます。あるがままに受け入れ、あたりまえでなくありたいことだと感謝することが大切です」とお話しくださいました。続いて上田常信上人より、日達上人のご遺言「命ある限り徳を積み続けましょう」に関するご法話をいただき、先祖供養・罪障消滅、そして堪忍の成果について

てご教化いただきました。

日達上人はご遷化の後も、ずっと私

京都支院Ⅱ 支院御法推進大会

手となり足となり働かせていただきます

京の山々も艶やかな彩りに見事に変わり、人々の目を楽しませる季節となりました。

12月1日、支院御法推進大会並びに物故者法要が安藤上人導師のもと営まれました。今年の物故者は2名おられ、ご親族の方がお焼香をされました。

法要後、安藤上人にご挨拶をいただき、運営委員長の司会で平成28年度支院御法推進大会が始まりました。内容は、

○11月3日、本山での御法推進全国大会の内容報告

○信教師による『信教師会報』の輪読

達のことをご守護くださっています。本当にありがたいことであります。その御報恩謝徳のためにも、精進を改めてお誓い申し上げます。

(通信員 廣出寛一)

と体験談発表

○法音寺発行DVD上映

最後に安藤上人が「法華経に値遇できたことはあたりまえではなく、ありがたいことです。そのことに感謝して一人でも多くの人に伝えていきましょう」とお話しくださいました。

大会終了後、手作りのいなり寿司と具だくさんの巻き寿司、風呂吹き大根にすまし汁、そしてデザートなど、どこのお店にも負けないお料理が並び、大好評でした。

大会は滞りなく終了し、皆さんご供養を戴かれ、帰路に就かれました。

「是非一人は仏になれる人に導きましよう。法華経には一人を導く功德は廣大であるとあります」

このお言葉を胸に、三先師並びに日達上人が築いてくださった「慈悲・至誠・堪忍」の三徳のみ教えを実行させ

西春支院Ⅱ山首上人さま「親修・顕修院日達上人御祥月命日法要」

在りし日のお声が蘇りました

青空が穏やかに広がった12月2日、山首上人さまをお迎えし、顕修院日達上人御祥月命日法要が厳修されました。ご宝前に掲げられた日達上人のお塔婆と温和な御遺影に、在りし日のお声が蘇りました。

法要はドラ・ハチに散華が舞い、厳肅な気持ちになりました。神力品が始まると、山首上人さまがお焼香をなされ、その後、ご参詣の方々が順次お焼香台に進み御報恩感謝を祈りました。

法要の次は授戒会が行われました。3名の方が一人ひとり進み、山首上人さまより法名を授けられました。尊い

ていただくとともに、山首上人さまの手となり足となり働かせていただくことを、改めてお誓いさせていただきました。三徳の実行、お徳積みに精進して参りたいと思います。

(通信員 牧野伸江)

ご法名に深い感動を味わったことでしょうか。

渡辺上人より「あたりまえの心が大きくなるにつれ感謝がなくなる。ありがたいという気持ちを保てると仏に近づくから、感謝の心が続けられるよう

明川支院Ⅱ山首上人さま「親修

お天気の心配などいりませんでした

12月3日、信者さん達が待ちに待った山首上人さまのご親修の日が来ました。今年は大不順のため、暖かくなったり、寒くなったりが繰り返され、

に」とご教示いただきました。

山首上人さまは、いろいろな方を例に挙げられ「堪忍は、まったり、まったり」と、何秒か待つことが大切です。運動選手でも、勝つため人を押しつけて争うのではなく、自分のベストを尽くそうとすると良い結果が出ます」とお話しくださいました。

特別加持では山首上人さまが撰経を優しく当ててくださって、温かい気持ちに包まれました。

皆さん、終わると1階でみたらしだんごをいただきながら寛がれていました。そして玄関先ではたくさんのご供養を戴き、明るく帰途に就かれました。

(通信員 栗木良子)

当日も気をもみましたが、何の心配もありませんでした。暖かい一日となり、朝から毛利上人、お庫裡さま、奉仕の方々が山首上人さまのお迎えの準備を

着々と進められました。昼食にお出しする支院名物の鳥ご飯と豚汁の準備も楽しくスムーズにできました。

午後0時半頃に山首上人さまが到着され、早速鳥ご飯を召し上がっていただと「今年もおいしいですね」とおほめの言葉をいただきました。

定刻、午後1時30分に支院元主管・内藤妙透法尼（清修院妙透法尼）の23回忌追善供養と参詣者各家先祖供養の法要が始まり、法尼を思い出しながらお焼香をさせていただきました。

法要後、毛利上人から、妙透法尼の布教の経歴などをお話しいただき、毎月の講日に出席し、施本などの布教をしている103歳の女性信者さんについてもご紹介いただきました。山首上人さまは、村上先生の堪忍のお話をわかりやすくひもといてくださいました。「長い間堪忍しても、たった1回堪忍を破ればそれで徳は消えてしまいます。今日一日、今日一日と、一日一日堪忍を続けてください」

最後は特別加持で日頃の煩惱を払っ

ていただきました。

山首上人さまをお見送りし、参詣者の方々を送り、片づけも手早く終えることができました。反省会では妙透法尼の思い出を語り合いました。

お天氣の心配などいりませんでした。日達上人の「なるようになる。諸天に

関支院 物故者法要

今は亡き法友を偲んで

12月3日午後1時30分より、講日に併せて物故者追悼法要が営われました。

ご宝前には三先師・日達上人・吉田妙源法尼（慈光院妙源法尼）・物故者諸霊位の大塔婆が祀られ、きれいなお花とたくさんのお菓物が供えられています。堂内は昼の講日とあって、夜は参詣しにくい方や新しい方も見受けられ、和やかな雰囲気に含まれていました。吉橋顕良上人導師のもと法要が始まりました。読経の中、参詣者のお焼香の列が続き、皆さん、亡き親族、法友を偲びながら香を手向けられました。

まかせましよう」のお言葉通り無事に終えることができました。諸天善神・三先師・日達上人のご加護の賜物と感謝し、来年もまた山首上人さまにご親修をいただけるように精進することをお誓いし、解散いたしました。

（通信員 鈴木初枝）

法要後、顕良上人より方便品の十如是のお言葉をもとに「お経を唱えるにも、ちよっと深い気持ちで行うことが大事です」とご教示いただきました。続いて島田知教上人より「満足と不満足」について「心が満足なら三徳も実行できますが、心が不満足で思うようにならないとつい、三毒の心になります。徳を積んで心が満足になるようにすることです」というお話を伺いました。

終了後、参詣された皆さまは良いお話を聞き、ご供養を戴いて支院を後に

されました。

年に一度の物故者法要に、改めて亡

高槻支院Ⅱ支院御法推進大会

新たな年がスタートします

12月3日、講日に併せて支院御法推進大会と回向日が開催されました。

正午より勤行が始まり、その中で支院護持会員物故者追悼法要と、回向日に申し込まれた方々の追善回向が営まれ、参詣者全員でお焼香をさせていただきました。

法要終了後、岩田上人はご挨拶の中で、三徳開教110年に向けての支院での御法推進実行目標を、次のように掲げられました。

・今日一日 笑顔で良いところをほめ合いましょう

・今日一日 喜びの写経を人にも勧めましよう

・今日一日 『一日一言』を活用しましよう

『大白牛車8 『一日一言』を修養のも

き法友を偲ぶことができ、感謝いたしました。
(通信員 幅梅子)

とし、今日一日の積み重ねを大切にしていこうことを目標にしましょう」とお話しいただきました。

本堂でのプログラムは、御法推進目標と支院実行目標の唱和、来年度役員紹介、運営委員長の挨拶、御法推進全国大会のビデオ上映、平成29年度御法推進目標と事業計画内容、信教師の体験談発表と進みました。

信教師の方の体験談は、先月3回忌の法事を済まされた御義母にまつわる内容でした。結婚当初よりご主人のお母さまと同居されていましたが、お互いに嫁姑間の争いが絶えなかったそうです。そんな生活が30年続いたある日、突然ご主人の妹さんが「お姉さんは30年間お母さんの面倒を見てくれたのだから、今度は自分が親の面倒を見る」

とおっしゃられ、お母さまを引き取られたそうです。これをきっかけに、お互いに距離を置くことで逆に心の距離が縮まったのか、義母に対する慈しみの心が出てきて、御法の話もするようになったとのこと。また二人とも授戒を受けられましたが、戒名がなんとお互いの俗名部分だけが違う一字違いの戒名だそうで、親子としての深い因縁を悟られたそうです。最後に、『一日一言』の1月27日の「聞知」を引用されて、お話を締めくくられました。

小休止をはさんで午後2時30分より研修棟の場所を移して懇親会が開かれました。テーブルには奉仕の方々に準備いただいたお花や軽食、飲み物が並べられ、乾杯の音頭を皮切りに和やかな会食が始まりました。後半にはビンゴゲームが始まり、当たった景品の中身を開けて見たり、開けずに予想したり、交換したりして皆さんそれぞれの楽しみ方で大いに盛り上がりました。

最後は、岩田上人の閉会の辞で無事終了となりました。

これを機に三徳開教110年と顕修院日達上人第7回忌御報恩会に向けて、

また新たな活動がスタートしました。
(通信員 新庄達吉)

三原支院Ⅱ顕修院日達上人御祥月命日法要

立派な新本堂を眺めながら笑顔の奉仕

12月3日、本年最終講日に三先師・顕修院日達上人御報恩謝徳、森野智岳上人(常久院智岳日公上人) 御祥月命日法要が営まれました。

午前10時30分より、除災祈願お題目会が行われました。午前11時からの各種奉仕作業では、トラックとマイクロバスで新本堂に向かい、溝の落葉集めや草取りなどが行われました。12月18日に向けての下準備を進めるべく、晴天の青空の下、立派なお寺を眺めながら皆さん笑顔で奉仕作業をされていました。終えると支院に戻り、昼食に親子丼とダイコンの酢の物をおいしくいただきました。

午後1時30分より、古浜町のお寺での最終講日が行われ、読経の中、三先師・日達上人・日公上人に感謝のお焼

香をさせていただきました。

法要後、森野上人は「どのように努力したら、どういう結果となったか」と

東京支院Ⅱ支院御法推進大会

法音寺の一員としての誇りと感謝

12月4日、支院御法推進大会の日。門前に立つと、懐かしい光景が広がっていました。テント、久し振りの出番ですね。今日は餅つきの日でもあります。

午前11時、「よいしょ」の声とともに、これまた久々の出番となった臼と杵の共演が始まります。薄い雲のベールに覆われた陽光は柔らかく、風もない絶好の餅つき日和。餅つきも佳境に入り、職場の同僚に誘われて初めてお

いう、一つひとつの積み重ねが徳となり、経験になります。その実感を何度か重ねて法の喜びを体得してください」とお話しくださいました。

長年お世話になった今のお寺へ感謝を捧げつつ、新しいお寺でこれからも頑張っていきたいと思えます。

(通信員 平田真弓)

寺に現れたという2人組も、ひと臼のノルマを果たして、ぱくぱく。最後はお飾り用で締めくくりました。

今日は子ども会のクリスマス会の日でもあります。先日出した、かわいいお誘いのハガキ作戦が功を奏したか、子どもさん、付き添いの大人達、そして手伝いに来てくれた青年会員達は合わせて50名に迫りました。彼らが、小さな杵でべったんべったんと楽しんでいる間に、そっとマルチホールをの

ぞいてみると、そこはクリスマスツリーとリースの制作工房となっていました。

午後1時、鐘が鳴らされ太鼓とともにお題目が始まります。一階でゲームに興じる子ども達とは別世界。階上のご宝前では静かに御法推進大会の幕が上がります。思えば1年前は猪原法尼の通夜・葬儀が営まれていたのでした。そんな思いも胸に抱きながら法要が終わると、全国大会で披露されたDVDがスクリーンに映し出されます。1年の行事、各委員会・昭徳会などの報告を目にし、改めて法音寺の一員であることを誇りと感謝の念を抱きました。

その頃、階下の子ども達の所へはサントさんが訪問中。大喜びの子ども達に混じって、初めて生で見るサントさんにびっくりしたのか、後ずさりしてプレゼントも目に入らぬ幼児もいて、逆にサントさんもびっくりです。

階上では運営委員長による支院の活動報告に始まり、信教師会・発心会・青少年育成委員会・青年会・子ども会

と各会の報告と抱負が続きます。

「おまえたち、わたしがなきあと、だれがこのほうを、つたえるのであるか？」

豊川支院Ⅱ顕修院日達上人御祥月命日法要

ご遺影を拝するだけで心が軽くなります

12月4日午後1時30分、三宅上人導師のもと顕修院日達上人御祥月命日法要が営まれました。

ご宝前は淑やかな供花に包まれた顕修院日達上人のお塔婆とご遺影、拝するだけで心がホッと軽くなります。如来神力品第二十一の読経とともに、御報恩謝徳のお焼香をいたしました。

法要後、三宅上人は「怒り・愚痴は一度口から出ると止まらなくなりますが、ならぬ堪忍するが堪忍です。怒らないでやるのが幸せのもとです」とお話しください、四日市・祖父江上人からは「困ったこと、苦しいことが起こってきたときは何よりも、お徳を積むことが大切です。苦しみの基に徳を注

DVDに映ったこの文字を心に、拍手とともに散会となりました。

(通信員 川合和美)

げば、徳が巡って苦が消えていきます」と、ご自身の体験を交えたご法話をいただきました。

『一日一言』12月4日、「護念Ⅱいつも護られていると思いませんか？」と問い掛けられ、「人には仏性があるとはいえ、煩惱の泥があまりに深いため、その芽生えは容易ではない。芽生えない仏性はあってもあるとは言えないので、人々の迷いは果てない」と、厳しい言葉でより確かな信仰をお勧めになつておられます。

仏さまに、いつもどんな時も護られているにもかかわらず、煩惱を起こし、無明の日暮しを続けている私たち。迷わず弛まず罪障消滅を重ね、一筋でも

御法の光を日々の生活に射し込み、新しい年を迎えたいと、ご遺影に合掌い

たしました。(通信員 鈴木康昭)

大垣支院Ⅱ年末大掃除

適材適所でコンビネーションを利かせました

12月4日、少し早めの年末大掃除が行われました。午前9時より運営委員・奉仕者・青年会が集まり、運営委員長のご挨拶の後、役割分担が伝えられました。

男性陣は主に外周りを、女性陣は内周りを担当。外周りはクモの巣が多く、特に本堂正面の出入口は、まさにクモの住宅密集地と化していますが、今までの経験を活かし、さまざまな道具を使い分けて着実に取り除いていきます。少しきれいになると、今まで気にならなかった汚れも目につき、それを取り

除いて、と繰り返していくうちに、見違えるようにきれいになりました。仕上げに高圧洗浄機とホウキを使い、外周りは終了です。

一方、内周りの女性陣は手慣れたもので、窓の上の方は背の高い人、低いところは低い人、台所等は使い慣れた人が、と適材適所でコンビネーションを利かせて立ち回りました。

お昼まで、ほぼノンストップで清掃した甲斐あって、見違えるほどきれいになりました。

清掃を終えて、運営委員長より労いと感謝の言葉が述べられ、昼食となりました。今年一年、雨風を防いでいただき、快適に三徳に励ませていただいた本堂に感謝し、清々しい気持ちで散会しました。(通信員 姫田拓男)

大垣支院の年末大掃除



関支院Ⅱ小原奉仕

まわりがきれいになって心も洗われました

晴天に恵まれた12月4日午前8時、

今年3回目の小原福祉ビレッジの清掃

奉仕へと、男女合わせて12名が出発しました。小原奉仕の常連さんばかりです。

車2台に分乗して約1時間、紅葉の山々を眺めながら、9時頃に小原福祉ビレッジに到着しました。

早速、作業姿に着替えて男女別に分かれ作業が始まりました。男性は入口近くの松の木8本の剪定をしました。剪定の得意な方が揃い、見る見るうちにきれいになりました。女性は入口の側溝に溜っている落ち葉の清掃をしました。落ち葉を集めて軽トラックいっぱい積み、2往復しました。

途中、10時半頃に飲み物やお菓子をいただき、一服してから引き続き作業に入り、午後0時30分頃、無事に終了しました。きれいになった所を眺め、心洗われました。

帰りにはお土産を戴き、小原の皆さんのお見送りを受け、感謝しながら清々しい気持ちで小原福祉ビレッジを後にしました。

帰途、昼食を摂り、紅葉の山々を通

り抜け午後3時頃、支院に着きました。小原福祉ビレッジの奉仕も、この日が今年最後です。無事に松の木の剪定

平賀支院Ⅱ後藤妙定法尼御祥月法要・物故者法要

多くの方々とお別れしたのですね

をさせていただき、清掃することができたことを感謝いたしました。
(通信員 幅梅子)

12月5日午後7時より、第37回物故

者諸霊位法要が行われ、併せて後藤妙定法尼(清雲院妙定法尼)御祥月命日法要が奉行されました。

37回と回を重ねますと、物故者も80余名となりました。そんなにも多くの

方々とお別れしたのだと、皆さんを思い浮かべながらお焼香いたしました。

「自受法薬―縁によって生まれ、縁によって生かされてきた私達は、より善き縁を結ぶために、ここに今ある御法の

因縁を多くの人とともに楽しみ精進しましょう」と、日頃より教えていただいています。参詣の皆さんの多くは妙定法尼をはじめ、物故者となられた父母・友人等より御法の縁を結ぶことができました。感謝の合掌をして精進

をお誓いいたしました。

法要後「今年も残りわずかとなりました。自分の体が動くことを喜んで少欲知足、満足できるように精進をお願いいたします」と、後藤上人よりご教示いただきました。

終了後、参詣された皆さんは「私の誓願」を書いてお帰りにになりました。来年の精進の糧にされることでしょう。

(通信員 加藤寧子)



支院だより掲載写真は、それぞれ関係者より提供されたものです。

福祉のひろば

少子・高齢社会の中の日本の福祉

瀧廉太郎作曲の唱歌『お正月』を歌いたくなる季節を迎えました。

認知症高齢者の場合、幼少期に口ずさんでいた唱歌等の古い記憶は比較的多く残っているのですが最近の出来事は「短期記憶障害」により記憶に残すことがむづかしくなっています。

そうした認知症高齢者の諸症状に対して、その理由や背景を理解せずに接していると心の余裕がなくなり、時として「怒り」の感情が湧いてくる危険性があります。この

感情をただ抑えようとする、知らず知らずのうちにストレスを溜め込んでしまい、ついには我慢の限界がきて、不本意に本人を傷つけてしまうこともあり、お互いの信頼関係を壊してしまうことにつながりかねません。

そもそも「怒り」の感情は、特定の刺激に対して特定の反応をするよう、これまでの人生経験の中で獲得してきた反応習慣、つまり「条件反射」なのです。例えば、繰り返し同じことを聞く認知症高齢者の言動

に『刺激』を受け、我慢できなくなり、強い口調で「何度も同じことを聞くな」と『反応』するのです。つまり「怒り」の感情は、「人間の防衛本能」だといえます。しかし、繰り返し同じことを聞く認知症高齢者は単に「短期記憶障害」が原因でこのような言動を繰り返ししているだけで、悪意があるわけではありません。

短期記憶障害を改善することが困難であるとするれば、接する側の人間が「怒り」の感情をコントロールすることが必要不可欠です。

人間はある出来事に遭遇すると、さまざまな意味づけや捉え方をします。例えば、飲食店に入り席に着くと店員さんが、半分程度水の入ったコップを持って来て、目の

前に置いたとします。ある人は、店員に「ありがとう」と言い、またある人は、「こんな少ない水を出して失礼だ」と店員に文句を言います。しかし現象は、半分程度水の入ったコップを目の前に置かれたという出来事だけなのです。つまり「怒り」の感情とは、ある出来事を否定的な捉え方をした自分自身の価値観によって自己生産したもののなのです。

認知症高齢者を介護している方が、気分転換できる環境や、時には苦労話を聞いてくれる仲間との時間を大切にしながら、目の前の出来事を肯定的に捉える思考訓練を習慣化することで、「怒り」の感情は少なくなっていくに違いありません。

(K・T)



福祉に 生きる

社会福祉法人 昭徳会

小原学園・小原寮の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

自分が幸せになるために人を幸せにします

小原学園 心理指導担当職員 谷口 穂菜美

「幸せについて考える」という言葉はよく耳にしますが、その答えを聞くことは今までになかったように思います。しかし杉山辰子先生はその答えを持っておられ、その答えを証明するかのごとく鈴木修学先生がさまざまな行動を起こされていることに驚きました。

私の場合「幸せになりたければ幸せの種をまくことが必要」という言葉は頭では理解できるものの、果して本当に幸せになれるのかという疑問がどうしても拭いきれません。しかし修学先生はこの言葉を疑うことなく自ら実行に移し、人のために尽くしてこられたのですから、この言葉に余程の確信があったのではない

かと思いました。

幸せを追い求めると、どうしても人は損得の感情が芽生えてきてしまうと思います。しかし修学先生が行われてきたことは損得に関係なく、人々のためになること、相手を幸せにすることだけを純粹に目指されていたように感じました。つまり人々を幸せにすることを楽しみに感じておられ、楽しいからこそそれを幸せと感ずることができ、〃幸せの種をまく〃ということが自らの幸せになるという確信を得ることができたのではないのでしょうか。このことから、ただ幸せが訪れるのを待つのではなく、自らが実行していく中に幸せというものがあるのではないかと感じました。

私自身を振り返ってみると、幸せになりたいと願うものの、その幸せとはどういうものなのか、幸せになるために何をしているのかについて何も思い浮かびませんでした。そのため自分自身がいかにか受け身の姿勢であったのか、ということに気づかされました。また幸せという答えを導き出せないのは、その答えを導き出すための経験がないからだということにも気づかざ

れました。経験がないためにその答えに確信を持つこともできず、口ばかりとなってしまうように感じました。自分自身の中に幸せの定義をはっきりと持つこと、また正しいと思うことを疑うことなくことん突き詰めていく姿勢が必要なのではないでしょうか。今回この本を読んでみて、修学先生の行動にはいつもゆるぎない信念があると感じました。

〃自分が幸せになるために人を幸せにする〃

そのために必要なことは何かを考えて実行する。私も今回この本から得られた気づきを大切に、ゆるぎない信念を持ち続け、幸せに向けてさまざまなる人のためになることを実行していきたいと思えます。

修学先生の言葉に感銘を受けました

小原学園 児童指導員 宮川 扶咲

小原学園で働き始めてから約4カ月が経ち、勤務にも少しずつ慣れてきました。利用者さんも以前より私の伝えたいことをわかってくれるようになり、声掛け

にスムーズに反応してくださるようになってきました。そのためか、以前は「うまくいかなくてあたりまえ」「時間がかかってあたりまえ」と思っていたのが「もつとスムーズに一日を終えられるのではないか」と考えるようになり、利用者さんに対して厳しい態度で接することが増えたように感じていました。そんな時にこの本を読み、利用者さんにとって一番良いことは何だろうか？と考えるきっかけになりました。

この本の中で心に残った言葉が二つあります。一つ目は臥竜山での農業指導中、罪を犯した少年たちに修学先生がおっしゃった「人間も心の耕作を怠らなければ必ず善い人になれる。(中略)日々の耕作を怠ると心は荒れ、ねじ曲がった人間ができてしまう」という言葉です。これは自分で心を育ててほしいと、子どもたち自身に向けられた言葉ですが、子どもたちと向き合っている私たちが、彼らの心を耕し、育む努力を怠ってはならないのだと考えさせられる言葉でもありません。

修学先生は叱るのではなくほめて伸ばすことを大切に

にしている、その方針はこの本の中で何度も出てきますが、私自身をふり返ってみると、ほめてあげたいことは思いつつも、悪いところに目が行き叱ってしまうことが多くなってきたように感じます。危険なことや悪いことに対して厳しく注意するのは必要なことですが、その分子どもたちの良い部分をたくさん見つけてほめることを大切にしていきたいと思いました。

二つ目の心に残った言葉は「私たち施設の人間が忘れてはならないことは、一般社会の人々に理解を求め、その支援を信頼することであります。(中略)一般社会の人々が、一般の子どもたちと同じように親しみ、可愛がってくださいることによって、施設の子どもたちはよく育っていくのです」という言葉です。私はこの言葉にとても共感し、周りから愛される子に育つよう、これまで以上に愛情を持って子どもたちの支援をしていかなければならないと強く思いました。またこの言葉により、修学先生が寄付をしてくださった人々に対して多大なる感謝をしておられたことがわかりました。私たちも社会の方々の方々の理解を得て子どもたちを支援す

ることができるといふ環境に感謝しながら、この仕事に携わっていいこうと思いました。

修学先生の人類愛に感動しました

小原学園 児童指導員 長谷川 景三

この本を読んで鈴木修学先生の人となり、この昭徳会の歴史について少し学ぶことができました。修学先生はとても人類愛に満ちあふれ、それに加えて真面目な方だと感じました。修学先生は成功していた菓子パン屋を自ら手放しましたが、もし自分なら成功を収めたものを手放すことはむずかしいと思います。金銭面もありますが、菓子パン屋は自分の成功した証でもあるのですから、オリンピック選手のコメダのようなものだと感じます。にもかかわらず修学先生がそれを手放すことができたのは、菓子パン屋に自分の人生の成功を確信していなかったからなのではないかと思えます。そしてこの菓子パン屋を手放すという人生の大きな決断を下したもう一つの理由が、杉山辰子先生と法華経

との出会いだと思えます。これらの出会いがあったのはもちろんですが、杉山先生と法華経に魅せられた修学先生の中にはすでに人類愛が芽生えていたのだと思います。

そして杉山先生から大変重い荷物を渡される場面では、その言い回しと展開に感動しました。この場面から修学先生の本格的な社会福祉事業が始まるのだと感じました。その後の修学先生は、今までの菓子パン屋とは打って変わってハンセン病療養所の運営を任せられました。当時のハンセン病は「不治の病」と言われ、空気感染するとまで信じられていたものですから、とても勇気のいることだと思えます。しかしこれまでの修学先生から見ると、ハンセン病の人たちを助けたいという気持ちから、恐怖などの感情はなかったのかもしれない。この重大な任務を任せられた修学先生は精神的にとっても強い方だとも感じられます。療養所の運営はどれだけ頑張っても好転しないのに、その苦しい中でも自分のことではなく患者さんたちのことを考え、大事に持っていた宝物の金時計を質屋でお金に換えて

もらい、そのお金で「どんたく」へ行く患者さんの服を買ってあげていました。

そして杉山先生が残した「慈悲」「至誠」「堪忍」の三徳の言葉は今、自分が社会福祉に関連して働く上でとても大事なことだと思えました。特に「堪忍」という言葉は修学先生の「ほめて育てる」に通ずるものであり、自分にとつてとても重要なものだと思います。働いているとき、悪いことをしてしまった子どもについて「コラー」といった叱る言葉が出てしまいがちですが、修学先生のように悪いことにはグツとこらえて、良いところをほめられるよう支援していきたいと思えます。そのためにも日頃から、利用者さんと近い距離で関わっていききたいと思えます。

三徳を胸に仕事に取り組みます

小原寮 生活支援員 峰 杏奈

この本を読む前に研修で鈴木修学先生のご生涯のDVDを観て、病気で家族からも見放されてしまった人

々や、戦争で親を亡くした子どもたちに全力で救いの手を差し伸べている姿に感動しました。この本を読み、改めて鈴木修学先生はとても尊敬できる方だと思いました。

私はこの本の中で印象に残っているところが三つあります。

一つ目は修学先生の生い立ちです。修学先生は若くして菓子パンの製造販売に成功したり、大学の講義録を取り寄せて経営学の勉強に励んだり、人がうらやむような世間的な成功やぜいたくな暮らしをしていましたが、それは心を満たすものではなかったようです。私ならさらなる成功をめざしたり、新しく趣味を見つけたり、気の向くままぜいたくな暮らしを楽しむと思います。修学先生は私とは根本的に考え方が違うのだと感じました。

二つ目はハンセン病療養所の運営です。修学先生は家族からも見放されてしまったハンセン病患者さんに対し、時には自分が大切にしていた物まで売り払って運営資金にあてながら、患者さんの生活を支えました。

私は修学先生が自分の身を削ってでも療養所の運営をし、さらに周りに理解を求めたという点に感動しました。家族や親戚のために自分の身を削るのなら理解できますが、赤の他人の、しかも当時は周囲から差別を受けていた人たちのためにここまでできる人はなかないと思います。

三つ目は年齢的にも厳しい中、大荒行に挑んだという事です。修行をすることで現代に生きる法華經の行者の在り方を示すだけでなく、厳しい修行の中でも信徒や施設の子どものことを考え、手紙を送ったという事に修学先生が信徒や子どもたちのことをいつでも大切にしている様子が伝わりました。

この本を読み、修学先生は生涯、「慈悲・至誠・堪忍」の三徳を心掛けて身寄りのない人々の生活を助けたり、周囲に理解を求めたり、さらには学校を作り、福祉の知識を持つ人を増やしたということがわかり、本当にすばらしい方であると感じました。私には修学先生のように大きなことはできないかもしれませんが、福祉大学を卒業して福祉関係の仕事に就いたからには

「慈悲・至誠・堪忍」の三徳を胸に置きたいと思えます。また、本にあったように家族など自分の近くにいる人を大切に、常に感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思いました。

優しく接することの大切さを学びました

小原 寮 生活支援員 西本 明弘

この本を読んで心に残ったことが二つありました。一つ目は藤森の育児院での子どもたちへの接し方です。修学先生は「ほめて育てる」指導法で、親から捨てられたり虐待を受けたたりして心に深い傷を負い、固く心を閉ざした子どもたちの心を開いていきます。それにより子どもたちは育児院に来た時とは別人のように変わっていききました。このような修学先生の「ほめて育てる」指導法は心に残りました。私は子どもの頃は親に叱られてばかりで、ほめられることが少なかったです。そのことから今でも他人からほめられることに慣れておらず、ほめられてもどうという反応をしてよいの

か困ることがあり、時にはほめていただいた人を怒らせてしまうこともありました。修学先生のような「ほめて育てる」指導法を子どもの頃に受けていれば、今の私のようにほめられても困るようなことはなかったのではないかと感じました。

二つ目は、震災孤児を収容した際の子どもたちへの接し方です。震災孤児は、寮に連れてこられて修学先生が温かく接しても、初めの一日二日はじっとしていませんが次第にそわそわしてきて寮から逃げ出ししてしまうことがあり、中には友だちの服や靴を持ち出して、十日もすると平気な顔で寮に帰ってくる子どももいました。しかしそんな子どもにも、修学先生は声を荒げることもなく、心の傷が癒えるまで優しく愛情を注ぎ込み、良いところを見つけてはほめ、ずっと見守っていたのです。また修学先生は外の世界が恋しくなってきたと思われる子どもには、名古屋駅の見通しが良い場所に一緒に腰かけ、通行人の中の浮浪児の様子を見させて「また、あの仲間に戻りたいか」と問いかけ、子どもが「ううん、家に帰る」と答える、といったや

りとりをされてきました。こういったやりとりを経ると、子どもは落ち着いて寮の生活に入っていくのです。私はこの修学先生の子どもたちとの接し方を読んで、耐えることで得るものがあるのではないかと感じました。私は我慢や耐えることが苦手で、すぐに投げ出してしまふことや怒ってしまうことがあります。修学先生のように子どもたちを叱らず温かく見守る大切さを知ることができました。

また、子どもたちに優しく接し、気持ちが悪く着くまでよりそい、良いところをほめていくことが支援していく上で必要だと感じました。子どもたちだけでなく、障がいを持つ人々たちへの支援にもつながっていくのではないかとも思いました。この本で学んだことをこれからの支援に生かしていこうと思います。

自分ができることを精一杯尽くします

小原寮 生活支援員 中園 健一

私は福岡で老人介護の仕事をしていた時がありました

た。介護の仕事はそれまでに経験したアルバイトと違ってマニュアル通りにはいかず、不安と心配の連続でした。一緒に暮らしていた祖父母に「人のためになる仕事に就きなさい」と言われ、具体的な目標もないままに始めた仕事でしたが、知識と経験もなかった私に「利用者さんの情報を少しでも把握することが大切だ」と当時の上司は教えてくださいました。現場では認知症やアルツハイマーの方がいて、現場での「責任感」や「人の命を預かることの大切さ」を学びました。

修学先生は未経験な福祉、教育活動等、社会福祉事業が制度化されていない時代に、世間の人々の理解と援助をもとに事業を進めていくことで、色々な試練の体験から「真心を持って社会事業をすれば、助けられる人が沢山ある」と言われました。

大乘報恩会時代、財団法人の許可を受けて養護施設を開設され、孤児や被虐待児の保護養育にあたられました。

子どもたちの幸せを願う「心」を持って支援していく中で、資金面が思い通りにならず苦労したともあり

ました。それでも「親のない子を助け幸せに導く」「不幸な人々に、自分ができていることを精一杯尽くす」という思いで取り組んでおられました。

修学先生は、ご自身の経験をもとに鋭い洞察力や細やかな配慮を持って、子どもたちの自主性や人格を尊重し、意欲を引き出す教育を心掛けられました。そしてその姿勢は、他の保育士の皆さんに大きな影響を与えるほどでした。

修学先生は法華経の一説「如我等無異」を繰り返して説かれ、「仏さまはどんな人でも差別なく、同じように仏にしたいと努力されている。この一偈を精神的根源力としたい。本大学学徒の真理追究の基調でなければならぬ」と、後に日本福祉大学となる中部社会事業短期大学の創設時に述べられています。

私も生活支援員として、入浴介助、食事介助等これまで老人施設で実践してきた技術を磨くと同時に、さらなる専門知識は講習会、勉強会で吸収していき、昭徳会の基本理念、基本方針、職員行動指針を心に留め頑張っていこうと思えました。

頼りにされる支援員をめざします

小原 素 生活支援員 赤川 亮太

この本を読んで、鈴木修学先生は純粹にすごい方だと思いました。また日本福祉大学の創立者であることにも驚きました。日本福祉大学の名前は聞いたことがありましたが、創立者のことはこの本を読んで初めて知りました。

この本を読んで心に残る言葉があります。それは、不幸な人々に、自分ができることを精一杯尽くすことです。自分のことは後回しにして人に優しくするとういうことに感動しました。

先日、重い扉を開けようとしているおばあさんがいました。誰かが手助けをしてあげるだろうと思いましたが、周りの人たちは見て見ぬふりをする人ばかりでした。ならば自分が手助けすればよいと思い、困っていたおばあさんのために扉を開ける手助けをしました。おばあさんは笑顔で「ありがとうね、お兄ちゃん」と感謝の声をかけてくださり、その時は今までに感じた

ことのない気持ちになりました。

次に、修学先生が県や市と協力して社会福祉事業の発展に尽力したこともすごいことだと思いました。孤児や浮浪児の養護、保育園における幼児保育だけではなく、知的障がい児の教育にも取り組み、八事少年寮をはじめとする施設の運営にあたったこともすごいことだと思いました。修学先生に少しでも近づけるように、一生懸命に学んで利用者さんや職員さんから頼りにされる支援員になりたいと思います。

また、社会事業の現場で働く指導者養成のための大学を作ろうとする展開にもとても感動しました。

「昭和二十四年、横浜で全国児童福祉大会が開かれた時のことです。修学先生は、参加者にこう語っていました。『これからの時代、子どもたちを正しく導くためには、個人や民間の有志の力で取り組むだけではやはり限界があると思われれます。専門的な知識を持った人材を集め人材を養成し、知識を伝達する専門機関を作ることが急務です。私も昭徳会もそんな人材を求めています。現在、東京と大阪には、日本社会事業短

期大学と大阪社会事業短期大学があります。しかし、他の地域にはありません。私どもの中部地方にも、そういう専門機関を設立することが是非とも必要です』この発言に聴衆は大いに賛同しました」

これからは日本福祉大学にも足を運び、大学で行われる研修や勉強会に参加して、利用者さんに楽しい生活を提供できるように頑張っていきたいです。

障がい児入所施設 小原学園

- 愛知県豊田市沢田町座内22
- 入所定員50名 ●職員 正職員20名、パート職員7名
- 心理指導担当職員⇨虐待等による心理的外傷がある児童に対し心理指導を実施、治療を指導する専門職種。
- 児童指導員（障がい児福祉分野）⇨入所児の食事の支援、排泄支援、入浴支援、健康・衛生管理や余暇活動の支援、行事の企画立案を担当。次の任用資格が必要。①地方厚生局長の指定する児童福祉施設

の職員を養成する学校を卒業した者。②社会福祉士。③精神保健福祉士。④大学または大学院で、社会福祉、心理、教育、社会学のいずれかに関する学部・研究科・学科・専攻を卒業した者。⑤小学校、中学校、高等学校の教諭の資格を有する者。⑥高等学校を卒業した者であって、2年以上児童福祉事業に従事した者。⑦3年以上児童福祉事業に従事した者であって厚生労働大臣または都道府県知事が適当と認定した者。具体的な進路としては、4年制の福祉系大学を卒業するか、大学で、心理学、教育学、社会学を専攻し、児童指導員任用資格を取得することが一般的。

障がい者支援施設 小原寮

- 愛知県豊田市沢田町座内22
 - 入所定員140名 ●職員 正職員51名、パート職員23名
 - 生活支援員⇨入所者の行動障害への対応や身の回りの介護、健康・衛生管理、作業等の活動支援、利用者個別の支援計画や年間行事の企画立案等を担当をします。特に資格は必要としません。
 - 共同生活援助事業 グループホームさくや
 - 愛知県豊田市沢田町座内22
 - 入所定員9名 ●職員 正職員2名、パート職員3名
- ※本稿は平成28年9月に頂きました。（掲載順不同）

『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・160頁・800円(税別) 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

小原寮・グループホームさくやの挑戦



共同生活援助事業・グループホームさくや（豊田市小原）
～地域交流を通じて障がい者への理解を～

写真提供・昭徳会

小原寮・グループホームさくやは、知的障がいのある9名が共同生活している事業所です。「地域の中で地域の人たちと一緒に日常生活を営む」という理念に沿って自立生活を支援することを目的としています。

「さくや」のある豊田市小原地区は「四季桜の里」として名高く、秋になると紅葉と四季桜が見事な景観を作り出します。季節の移ろいを感じながら、穏やかな生活を過ごすことができる恵まれた環境にあります。

私たちは、利用者さん一人ひとりが地域社会とつながって自分らしく暮らせるようになるために、地域の人と利用者さんの接する機会を増やし、利用者さんに親しみを感じていただけるような関係づくりから取り組むこと

にしています。

その一環として、定期的に開催される地域の清掃活動へ参加しました。集会場での草取りではその手際の良さに地域の人が驚いていました。利用者さんが、地域住民として十分に役割を果たすことができることを実感しました。

また、近隣の床屋さん、美容院さん、さらにはコンビニエンスストア・喫茶店などを積極的に利用しています。最初は「職員の方が付き添ってほしい」と要望されていたお店の店主さんも、現在では利用者さんを名前で呼んでくださり、すっかり顔なじみになりました。さらに「さくやにこれ飾って！」と店主さんが育てている季節の花を定期的にプレセ

ントしてくださるようにもなりました。

信頼関係ができてくると、近くのお寺の除草ボランティアや秋祭り準備の手伝いなど、自然にさまざまな依頼が来るようになりました。利用者さんが地域の一員として認められる立場になったことをとてもうれしく感じています。利用者さんも地域の人と関係を持つことで、責任と自信をつかみつつあります。利用者さんが「この地域でこれからも暮らしていきたい！」という前向きな気持ちになれるよう、これからもバックアップしていきたいと思っています。

共同生活援助事業・グループホームさくや

グループリーダー（世話人・サービス管理責任者）

竹田慶介

経済学部開設40周年を迎えて

～日本福祉大学経済学部（東海キャンパス）



写真提供・日本福祉大学

日本福祉大学経済学部（東海キャンパス）学生数582名）は、1976年、本学2つ目の学部として名古屋・杖中キャンパスに設置されました。送り出した卒業生は東海地方を中心に全国に13、564名。本年開設40周年を迎えました。

1970年代は高度経済成長を続けた日本経済の発展のいちじるしさとは対照的に、社会保障の立ち遅れや公害問題等さまざまな成長の弊害が社会問題となっていました。福祉の大学だからこそ「福祉を理解する経済人」を育成し、「経済の安定・成長と福祉の充実との調和」という国民の期待にそえる教育と研究の推進を。そんな高い志のもとに誕生したのが、本学経済学部です。

当時の鈴木宗音理事長・学長は次のように述べています。

「経済学部についても、まさに『建学の精神』の発展に他なりません。（略）経済学部の設置が認可され、本学はいま一つの新しい発展段階を迎えることになり

ました」

本学の誕生そのものの先見性は、今日高く評価されていますが、経済学部の誕生も負けず劣らず先見性に満ちたものだと誇らしく思います。

さる11月26日(土)、東海キャンパスにおいて経済学部開設40周年記念事業が行われました。卒業生・在学生・後援会会員・一般市民と、さまざまな方にお越しいただき、参加者数は300人を超え、盛況な中で祝うことができました。

記念講演には、大和ハウス工業株式会社・樋口武男代表取締役会長兼CEOを講師としてお迎えし「経営者に学ぶ社会を生き抜く力―先の先を読む経営 創業者 石橋信夫に学ぶ」と題してお話いただきました。講演の中で樋口会長の言葉が印象に残りました。

「自分は特に新しいことをしたわけではない。創業者の思いを引き継いで形にただだけ。創業者の思いや教えに反することはやらない、この点は絶対におれない！」

樋口会長が創業者を慕い、創業者の壮大な夢に惹かれながら一心に仕事に取り組まれたことが、同社の強さの源泉であり発展につながったのだと確信しました。お話を伺って、私自身、学部の誕生に込められた熱い気概に心を馳せ、引き継いだ者として、身が引き締ま

る思いでした。

現在、経済学部は2つのコースを設置しています。ふくし社会実現に向けて、地域社会を活性化し、誰もが暮らしやすいまちづくりの視点を持つて、地域ビジネスや地域金融に携わる人材を育成する「地域経済コース」と、医療・福祉分野を中心とした経営のスペシヤリストをめざす「医療・福祉経営コース」です。

いずれのコースも経済学・経営学を基礎とし、さらに課題を自ら見出し、その解決に向けて取り組むことで力をつける「課題解決型学習」を重視しています。1年次からキャリア教育も開始し、2年次・3年次でのインターンシップで現場を経験するなど、将来を見据えて社会人基礎力を養成することにも力を注いでいます。また、企業との連携による教育プログラムの開発にも取り組んでいます。中部国際空港で「NIPPON FUKUSHI UNIVERSITY」の名前が入ったベストを着用した若者を見かけたら経済学部の学生ですので、是非声をかけてください。

40年は人間で言えば「不惑」。文字どおり惑うことなく、新しい東海キャンパスにおいて、新しい教育・研究に挑んでいきたいと思えます。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本福祉大学経済学部事務長 木戸脇正

幸せの種まき 一人が一人を

自分のでできることで人を喜ばせ 功徳を積んでいきましよう

功徳が現れる日はわからなくても
功徳を積むことができるのは
今しかありません

大乗山 法音寺

編集後記

明けましておめでとうございます。

「先づ五節供の次第を案ずるに、妙法蓮華經の五字の次第の祭なり。正月は妙の一字の祭、天照太神を歳神とす。三月三日は法の一字の祭なり、辰を以て神とす。五月五日は蓮の一字の祭なり、午を以て神とす。七月七日は華の一字の祭なり、申を以て神とす。九月九日は經の一字の祭、戌を以て神とす。此の如く心得て、南無妙法蓮華經と唱えさせ給え。『現世安穩後生善処』疑ひなかるべし」
(秋元殿御返事)

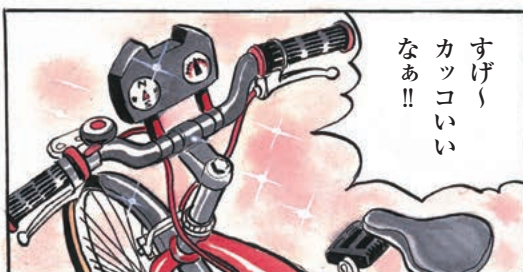
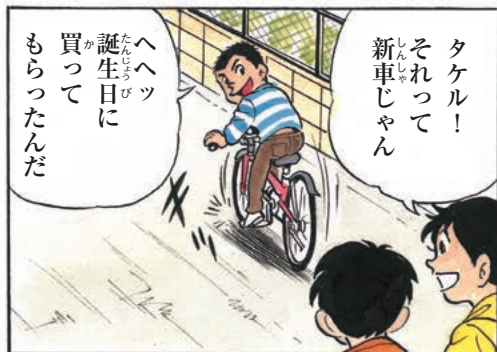
五節句(供)の「節」とは、古代中国の暦法で定められた季節の節目のことです。昔から3月3日や5月5日のように奇数の重なる月・日は、めでたい反面、陰に転じやすいとされ、邪気を払う行事が行われていたそうです。

日蓮聖人は「五節句」を「妙法蓮華經」五字の祭とされ、「このような節目にお題目を唱えらると必ず現世では安穩な生活ができ、後生では良い世界に生まれます」とおっしゃっています。「五節句」については『村上先生御法話集第一巻』(二―三頁)に詳しい解説が掲載されていますので、ぜひお読みください。

今年も行住坐臥のお題目を唱え、三徳を実行しましょう。読者の皆さんにとって実り多い一年になりますように。

はしらどけい じいちゃんの柱時計

竹中 淳



新しい
自転車!?

今のどこも
こわれてないし
まだ乗れるでしょ
ダメよ

チエツ

あら：
止まっ
ちやった!

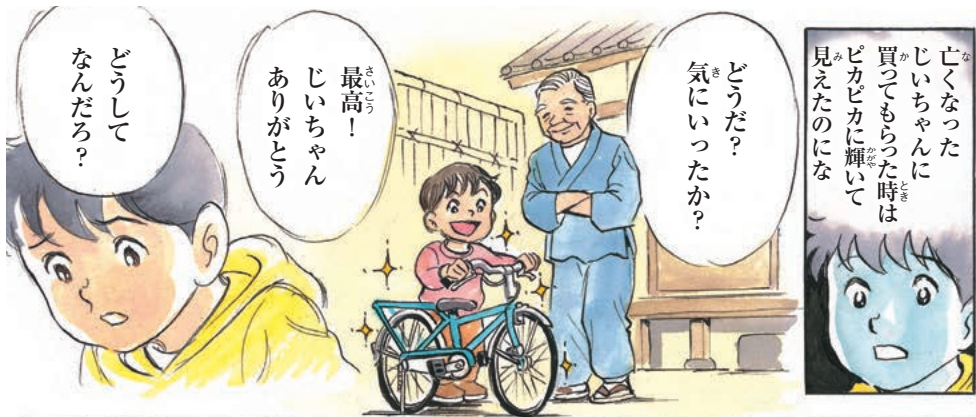
あ！義母さん
その掃除機
こわれてるわよ

洗濯機も
調子悪くてね
電器屋さんに
きいたら
「直すより
買った方が
安いですよ」
ですって!!

まあ

あちやう
しばらく
乗らない
うちに！

ガタッ



亡なくなった
じいちゃんに
買かつてもらった時は
ピカピカに輝きらいて
見みえたのにな

どうだ？
気に入ったか？

さいこう！
じいちゃん
ありがとう

どうして
なんだろう？

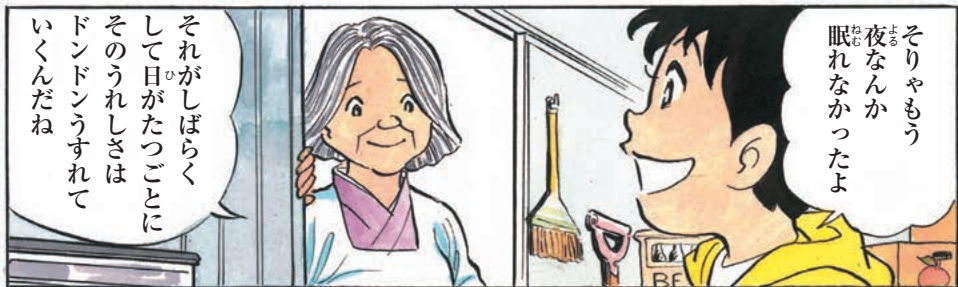


そりや
ないものねだり
といつてね

無ないものを
欲ほしいと思おもう
気持ちさ

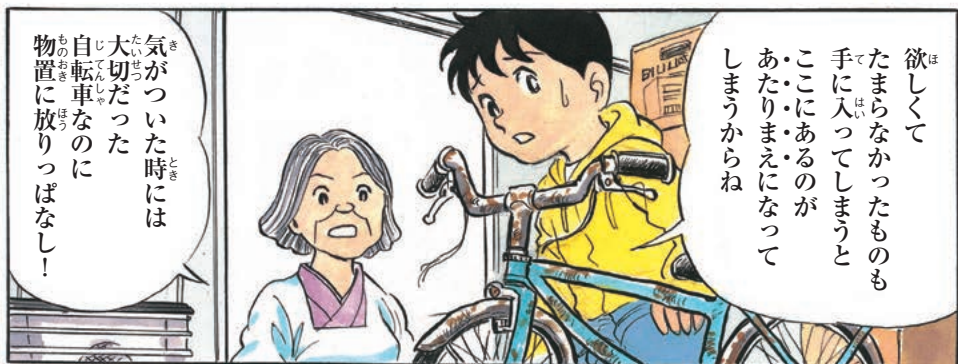
この自じ転てん車しゃが
来くる前まえの日ひ
どうだった？

うれしかった
んじゃない？



そりやもう
夜よるなんか
眠ねれなかつたよ

それがしばらく
して日がたつごとに
そのうれしさは
ドンドンうすれて
いくんだね



欲ほしくて
たまらなかつたものも
手てに入いってしまつと
ここにあるのが
あたりまえになつて
しまつからね

気きがついた時ときには
大た切きだつた
自じ転てん車しゃなのに
物もの置おきに放ほうりつばなし！



自転車を買ってもらった日のことをね



もう一度思い出してみるといいよ



ばあちゃんボクがネジまくよ

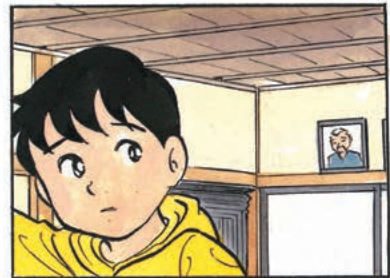
こわれちゃったのかしら
ずいぶんになるもんね



やだよ
止まってるじゃない



あらまだこんな時間？



動かないねえ

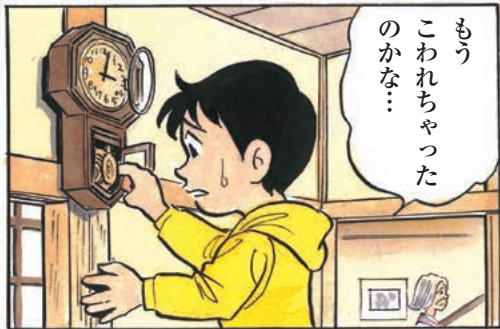
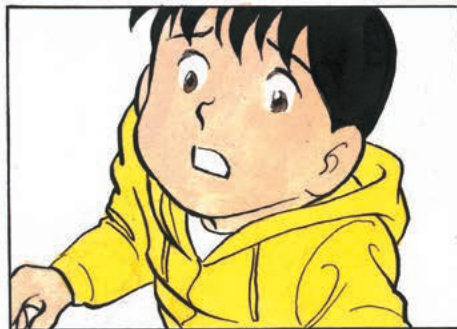
じいちゃん大切にしてたのね

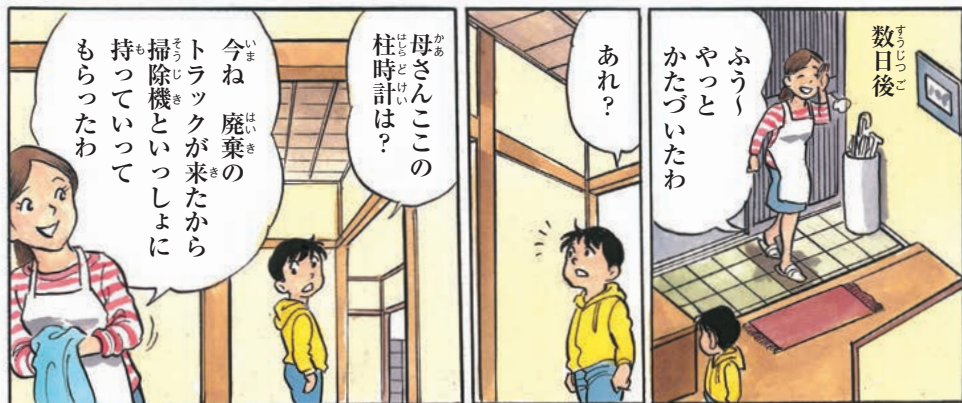


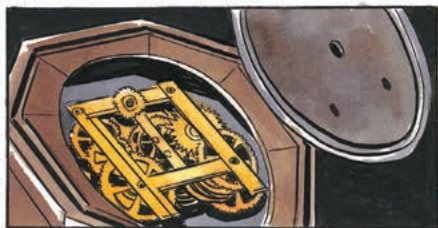
大丈夫かい
気をつけてね



じいちゃんの柱時計止まっちゃったよ...







きょう
今日は
おじさんに用が
あつてきたんだ



蓮くん！

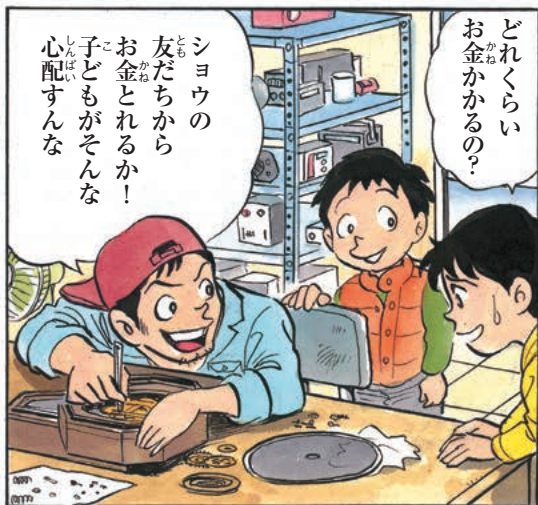


オレ好きだな
こうやって物を
大切にする人！

こりやいい柱時計だぞ
この持ち主は
大切に使用してたな
何度もクリーニング
してある



ふむ…



シヨウの
友だちから
お金とれるか！
子どもがそんな
心配すんな

どれくらい
お金かかるの？

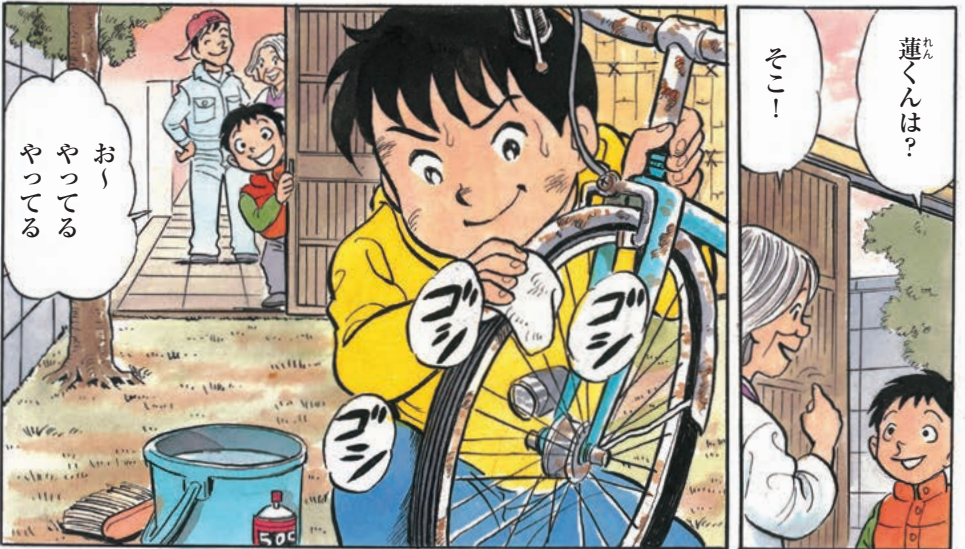


で
どうなの？
直るの？

この
もったいない屋に
まかせろ！
カンペキに
直してやる！

じいちゃん
柱時計
直るって
よかったね

これからはボクが
この柱時計の世話するよ



おしまい

平成29年・法音寺年間行事予定表

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
1	1	日	新年祝祷会	7	7	金	講 日
	2	月	〃		9	日	中国地区ほうろく加持・虫封じ
	3	火	〃		17	月	講 日
	7	土	初講日・交通安全祈願会		22	土	関東地区ほうろく加持・虫封じ
	17	火	講 日		23	日	ほうろく加持・虫封じ
	27	金	講 日(宗玄大徳祥月命日法要)		27	木	講 日
	29	日	節分会・星 祭		29	土	墓 経
				30	日	孟蘭盆会	
2	7	火	講 日	8	6	日	関西地区ほうろく加持・虫封じ
	17	金	講 日		7	月	講 日
	19	日	第288回報恩講習会		17	木	講 日
	27	月	講 日		27	日	講 日
3	7	火	講 日	9	7	木	講 日
	12	日	第47回青少年育成道場		17	日	講 日・合祀供養
	17	金	講 日		23	土	秋季彼岸会法要
	20	月	春季彼岸会法要		24	日	第291回報恩講習会
	27	月	講 日		27	水	講 日
4	7	金	講 日・釈尊降誕会	10	7	土	講 日
	9	日	第289回報恩講習会		17	火	講 日・御会式
	17	月	講 日		22	日	全山一斉清掃奉仕の日
	23	日	春季大黒・鬼子母尊神祭		27	金	講 日
	27	木	講 日		28	土	信教師セミナー(～29日)
	29	土	胎教児証書授与式				
5	3	水	浄心道場(～5日)	11	3	金	第35回御法推進全国大会
	7	日	講 日		7	火	講 日
	14	日	御開山会		12	日	秋季大黒・鬼子母尊神祭・七五三祈禱会
	17	水	講 日		17	金	講 日
	21	日	御開山会		19	日	第292回報恩講習会
	27	土	講 日		27	月	講 日
6	4	日	御開山会	12	3	日	本尊授与式・授戒会
	7	水	講 日(御開山上人祥月命日法要)		7	木	講 日
	17	土	講 日		17	日	講 日(日達上人祥月命日法要)
	25	日	第290回報恩講習会		27	水	講 日
	27	火	講 日(安立大法尼祥月命日法要)				

(注) 上記事項の変更、追加、及び団参等については事前にご通知いたします。

自説哲言



洋ラン

法音寺